

淨寫シ索引ヲ付シ一箇年分ヲ纏メテ裝釘スヘシ

第三十一條 回議文書中筆記訓令通牒何指令等ニシテ時々参照ノ必要アリト認ムルモノハ之ヲ騰寫シ類別ノ上索引ヲ付スヘシ

第三十二條 公告式新聞紙ハ一箇月纏メトシテ之ヲ保存スヘシ

第三十三條 官報及警視廳東京府公報ハ日日之ヲ檢閲シ執務参照ノ必要アリト認ムルモノハ其件目及發布ノ年月日等ヲ撮録シテ索引ヲ調製シ備ホ常用ノ必要アリト認ムルモノハ之ヲ淨寫シ各一箇年分ヲ纏メテ整理裝釘スヘシ

第四章 報告

第三十四條 毎月處理シタル事項ハ別紙所定ノ表式ニ依リ之ヲ處務月表ニ記載シ翌月五日限り市長ノ一覽

ニ供スヘシ

補則

第三十五條 本則中部長又ハ課長ニ關スル規定ハ之ヲ内局主幹ニ準用ス

(表式)

内局記録處務月表其一 明治何年何月分

計	種別	完結文書	編纂		假編		假編	
			本級	一級	氏付	返付		

(表式)

内局記録處務月表其二 明治何年何月分

計	種別		部	
	局	課	之	部
	一	覽	貸	付
	返	付	入	受
	贈	廢	棄	一
	覽	貸	付	返
	修	繕	取	廢
	廢	棄		

● 記録規程市訓治三十二年二月二十二日 第六號

内局各部

本市記録規程別紙ノ通相定ム

(別紙)

記録規程

第一章 總則

第一條 文書及圖書ノ取扱ハ凡テ本規程ノ定ムル所ニ依ル

第二章 編纂

第二條 完結文書ハ之ヲ編纂ス

第三條 完結文書ヲ左ノ部類ニ分ツ

第一 内局文書

- 一 機密事務ニ關スル書類
- 一 吏員ノ進退賞罰其他身分ニ關スル書類
- 一 役所内例則儀式ニ關スル書類
- 一 公告式ニ關スル書類
- 一 公文書類ノ接受發送ニ關スル書類
- 一 公文及法令ノ編纂保存ニ關スル書類
- 一 圖書ノ保管ニ關スル書類
- 一 郵便電信及發着物件ニ關スル書類

- 一 銓衡ニ關スル書類
- 一 雜件書類

第二 總務部文書

庶務課

- 一 市會市參事會議事ノ準備及議決ニ關スル書類
- 一 市稅特別稅ノ賦課其他市區ノ經濟ニ關スル書類
- 一 議員其他ノ選舉ニ關スル書類
- 一 條例規則及訴願訴訟ニ關スル書類
- 一 區行政ノ監督市役所及區役所經費ニ關スル書類
- 一 社寺宗教及名勝舊蹟ニ關スル書類
- 一 兵事ニ關スル書類
- 一 農商工務ニ關スル書類
- 一 船籍海員ニ關スル書類
- 一 賑恤救濟及養育院ニ關スル書類

- 一 雜件書類

教育課

- 一 學校幼稚園圖書館ノ設置變更廢止ニ關スル書類
- 一 學校幼稚園職員進退及身分ニ關スル書類
- 一 學務委員ニ關スル書類
- 一 學事ニ關スル書類
- 一 雜件書類

衛生課

- 一 傳染病地方病ノ豫防救治ニ關スル書類
- 一 種痘ニ關スル書類
- 一 窮民救療ニ關スル書類
- 一 傳染病院消毒所ニ關スル書類
- 一 市醫ニ關スル書類
- 一 傳染病豫防委員及衛生組合ニ關スル書類

- 一 衛生常設委員ニ關スル書類
 - 一 獸疫豫防ニ關スル書類
 - 一 汚物掃除ニ關スル書類
 - 一 上水試驗ニ關スル書類
 - 一 精神病者監護ニ關スル書類
 - 一 公衆衛生ニ關スル書類
 - 一 雜件書類
- 調査課
- 一 條例規則等ノ審査ニ關スル書類
 - 一 法例規則等ノ疑義ニ關スル書類
 - 一 市政ノ得失利害ニ關スル書類
 - 一 市ノ税法ニ關スル書類
 - 一 外國市政取調ニ關スル書類
 - 一 外國人ニ關スル書類

- 一 國籍ノ得喪ニ關スル書類
 - 一 統計報告ニ關スル書類
 - 一 行政上重要ナル取調ニ關スル書類
 - 一 雜件書類
- 第三 土木部文書
- 土木課
- 一 河港道路堤防溝渠壕壘橋梁ニ關スル書類
 - 一 市有建物ニ關スル書類
 - 一 街路建設物及埋設物ニ關スル書類
 - 一 雜件書類
- 地理課
- 一 市有地ニ關スル書類
 - 一 公園ニ關スル書類
 - 一 墓地ニ關スル書類

- 一 道路堤塘等ノ開廢ニ關スル書類
- 一 地理ニ關スル書類
- 一 雜件書類

第四 水道部文書

庶務課

- 一 水道費ノ豫算決算ニ關スル書類
- 一 水料及工費等ノ徵收ニ關スル書類
- 一 水道用物件ノ賣買出納及保管ニ關スル書類
- 一 雜件書類

工務課

- 一 水源水路及水道ノ工事ニ關スル書類
- 一 給水ニ關スル書類
- 一 水道用諸機械ノ設計修繕及維持ニ關スル書類
- 一 鐵管ノ鑄造監督及検査ニ關スル書類

一 雜件書類

第五 會計部文書

出納課

- 一 市區ノ歲入出及決算報告ニ關スル書類
- 一 市公債ニ關スル書類
- 一 市有及市ノ保管ニ係ル有價證券ニ關スル書類
- 一 雜件書類

用度課

- 一 物品ノ賣買出納及保管ニ關スル書類
- 一 役所内取締及給仕使丁ニ關スル書類
- 一 雜件書類

第六 築港調査事務所文書

工務課

- 一 築港工事ニ屬スル設計及測量其他技術ニ關スル

書類

庶務課
一 庶務ニ關スル書類

第七 市區改正事務所文書

工務課

一 市區改正ニ屬スル工事ノ設計及執行ニ關スル書類

庶務課

一 庶務ニ關スル書類

第四條 前條ニ定ムル類別ハ編纂上ノ便宜ニ依リテ之ヲ分合スルコトヲ得

第五條 編纂ヲ分ツテ左ノ二種トス

一 假編纂

二 本編纂

第六條 假編纂トハ日日收受スル所ノ文書ヲ類別シ索引ヲ附シ當該年度内假編綴スルモノヲ云フ

第七條 假編纂ハ之ヲ次章ニ定ムル保存種別ニ基キ其

第三種以上ニ屬スルモノト第四種ニ屬スルモノトニ區別ス

第八條 本編纂トハ前年度ニ屬スル文書ヲ類別及種別シ各索引ヲ付シ編纂裝釘スルモノヲ云フ

第九條 本編纂ハ次章ニ定ムル保存種別ニ基キ其第三種以上ニ屬スルモノニ就キ之ヲ爲ス

第十條 編纂ハ曆年度ニ依リテ區別ス
但會計ニ關スル文書ハ會計年度ニ依ル

第三章 保存

第十一條 完結文書ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ保存ス
第一種 永久保存

- 一 監督官廳ノ諸令達
 - 二 市條例規則告示其他令達ニ關スル書類
 - 三 例規考據トナルヘキ書類
 - 四 金錢出納ニ關スル重要ノ書類
 - 五 其他重要ノ文書ニシテ永久保存ノ必要アリト認ムルモノ
- 第二種 二十年間保存
- 一 稟申、伺、指令、諸往復其他市民ノ願、伺、届等ニシテ十數年間保存ノ必要アリト認ムルモノ
- 第三種 七年間保存
- 一 稟申、伺、指令、諸往復其他市民ノ願、伺、届等ノ文書ニシテ數年間保存ノ必要アリト認ムルモノ
- 第四種 三年間保存
- 一 諸往復其他願、伺、届等ノ文書ニシテ一時ノ處辨ニ

- 屬スルモノ
- 第十二條 前條第一種第一號文書及第二號中筆記訓令ニ屬スルモノニシテ特別保存ノ必要アリト認ムル文書ハ之カ謄本ヲ作リテ參照ノ用ニ供スヘシ
- 第十三條 前條文書ハ特別保存ノ記號ヲナシ文庫内別ニ之ヲ存置シ豫メ非常ノ變ニ備フヘシ
- 第十四條 文書及圖書類ハ之ヲ文庫ニ收藏スヘシ
- 第四章 廢棄
- 第十五條 保存期限ヲ經過シタル編纂文書ハ内局主幹之ヲ精査シ市長ノ認可ヲ得テ廢棄ノ手續ヲナスヘシ
- 第十六條 保存期限ヲ經過セシ編纂文書ト雖モ尙ホ參照ノ必要アリト認ムルモノハ主務部長ト商議シ市長ノ認可ヲ得テ別ニ年限ヲ定メ保存スルコトアルヘシ
- 第十七條 編纂文書以外ノ圖書類ニシテ存置ノ必要ナ

キニ至リタルモノハ隨時之ヲ會計部ニ引繼クヘシ

第五章 文庫

第十八條 文庫ノ開閉ハ執務時間ヲ限リトス

但緊急ノ必要アル場合ハ此限ニ非ス

第十九條 文庫内ニハ火氣ヲ容ルヘカラス若シ夜間燭

火ヲ使用スルノ止ムヲ得サル場合ニハ二名以上ノ立

會アルコトヲ要ス

第二十條 文庫内ノ文書及圖書ハ毎年六月及十二月ノ

兩度ニ於テ之ヲ検査スヘシ

第二十一條 文庫ノ鎖鑰ハ主任ニ於テ保管シ退廳ノ際

ハ之ヲ宿直員ニ交付スヘシ

第六章 貸付

第二十二條 文書及圖書類ハ文庫ニ就テ一覽セシメ又

其借覽ヲ乞フモノニハ所定ノ借覽證書ヲ差出サシム

本籍纂文書

冊		冊		冊	
函	架	函	架	函	架
號	號	號	號	號	號

ヘシ

第二十三條 文書及圖書類ノ貸付期限ハ通例一週間以

内トス若シ一週間以上使用ノ必要アル場合ニハ豫メ

其日數ヲ記載シ課長主幹ノ檢印ヲ受ケシムヘシ

第二十四條 貸付シタル文書又ハ圖書ヲ汚損紛失シタ

ルモノアルトキハ部長ノ加印アル手續書ヲ差出サシ

ムヘシ

借 覽 證

明治 年 月 日	課 名	冊 函 架
	人 名	
○注意 借受ノ日ヨリ七日以内ニ返付スベシ		

●完結文書ニ保存種目完結印押捺方

明治三十二年二月二十八日市長通達
内發第三十四號主幹課長宛

今般東京市訓令甲第七號ヲ以テ本市處務規程中一部改正致候ニ付テハ爾今完結文書ニハ處務規程第十九條及記錄規程第十一條ニ依リ返漏ナク保存種目及完結印ヲ押捺可致様注意ス可シ

●文書主任規程(明治三十三年一月十六日)

内

局

文書ノ整理ヲ迅速ナラシメン爲メ文書主任規程左ノ通相定候條各局部ニ於テ文書主任ヲ指定シ其職氏名ヲ速ニ内局ニ通報スヘシ

總務部
土木部
會計部

文書主任規程

第一條 内局及各部ニ文書主任一名ヲ置キ本規程所定ノ事項ヲ處理セシム

第二條 文書主任ハ内局ハ主幹各部ハ部長ノ指揮ヲ受ケ左ノ事項ヲ取扱フモノトス

- 一 内局ヨリ送付ヲ受ケタル文書ノ配付ニ關スルコト
- 一 文書ノ處分案其他ノ原議ニ番號ヲ記入スルコト
- 一 完結文書ノ引繼ニ關スルコト

一文書圖書ノ借覽要求及其返付ニ關スルコト

第三條 文書主任ニ於テ完結文書ノ猶ホ各主任手許ニ
留存シアリト認ムルトキハ速ニ之ヲ檢出セシメ即日
内局ニ引繼クモノトス

第四條 完結文書ノ引繼ニ關シテハ第二條ノ指揮ヲ受
クルノ外内局ノ請求ニ應シ特ニ迅速ノ取扱ヲ爲スモ
ノトス

●書籍雜誌收受取扱手續

明治三十三年三月二十九日主幹通牒
内發第七十九號課長

當應ニ到來スル書籍雜誌類ノ收受取扱手續今般左記ノ
通相定候間御承知相成度此段及通牒候也

一書籍雜誌類ハ其寄贈ニ係ルト購入ニ係ルトヲ問ハス
總テ受付ヨリ直接内局記録掛ヘ送付スルモノトス
但私人宛ノモノハ此限ニ在ラス

二内局記録掛ニ於テ前項ノ書籍雜誌類ノ送付ヲ受ケタ
ルトキハ其都度左ノ取扱ヲ爲スモノトス

一寄贈ニ係ルモノハ其書目冊數并ニ收受月日ヲ記シ
關係アル各課ヘ速報スルコト

一購入ニ係ルモノハ其書目冊數并ニ收受月日ヲ記シ
先用度課ヘ速報シ後關係アル各課ヘ通知スルコト

●書籍類購入并引繼方

明治三十二年二月二十一日
市訓令 甲 第五十一號

各局部ニ於テ執務上參考ノ用ニ供スル爲メ書籍類購入
ノ必要アル場合ニハ其旨内局ニ通報スヘシ
從前各局部ニ備付タル書籍類ハ此際一應内局ニ引繼ク
ヘシ

●統計書材料報告經由方

明治三十三年一月十八日助役通牒
 內發第百六十九號ノ三區長宛
 客年十二月府訓令第四十六號ヲ以テ統計書材料様式相
 定メラシ候ニ付テハ自今該統計報告ハ總テ當廳經由ノ
 義ト御承知相成度此段及通牒候也

●府報告例ニ依ル諸報告調査課へ差出方

明治三十三年十一月十三日
 市訓令甲第六十三號

內 局
 各 部 所

今般東京府訓令第四十三號ヲ以テ東京府報告例改定相
 成候ニ就テハ自今該報告例ニ依ル報告ハ各目錄ニ定メ
 タル期限内ニ調製シ當廳總務部調査課へ差出スヘシ
 (別紙)

一 市役所職員表

翌年二月末日

一 區役所職員表

同 上

總 務 部

一 管内ノ景況

行政 警察 消防 衛生 土木 教育 財政 監査 審判 労働 農業 工業 商業 交通 郵便 電話 電報 無線 汽船 船舶 航空 陸上 鉄道 地下 運河 港湾 漁業 畜産 林業 地産 衛生 消防 警察 行政

財政ハ會計年度
 其他ハ曆年度
 翌年 四月末日

一 市會表

翌年二月末日

一 市區歳入出豫算(二通)

翌年四月三十日

一 市區有財産明細表并事務報告謄本(二通)

同 上

同 上

一 市區及市立學校基本財産調

同 上

一 學事年報取調條項并諸表

曆年調ハ翌年二月十五日會
 計年度調ハ翌年六月末日

一 市立養育院諸表

翌年二月末日

一 人口統計材料統計小票

三十二年十一月府訓令第
 三九號第三號ノ回付期
 施行後三週日以内

一 春秋期痘痘施行票

翌年四月末日

一 漂流物及沈没品件數表

翌年四月末日

土木部	
一 土木工費總計表	翌年度八月末日
一 道路	翌年二月末日
一 道路ノ修繕坪數及修繕費	翌年七月末日
一 道路ノ新設	同 上
一 道路ノ廢止	同 上
一 堤防ノ新築及修繕	同 上
一 溝渠 (一) (二)	同 上
一 橋渠 (一) (二)	翌年二月末日
一 橋梁ノ新架及修繕 (一) (二)	翌年七月末日
市區改正事務所	
一 市區改正事業 (一) (二) (三)	翌年七月末日
一 市區改正費表	翌年度八月三十一日
水道部	

會計部	
一 水道 (一) (二) (三) (四) (五) (六) (七) (八) (九) (十)	翌年度七月末日
一 市區歲入出決算	翌年度八月末日
一 市公債	翌年二月末日
以上ノ様式ハ明治三十三年東京府訓令第四十三號別冊ニ在リ	
●結婚離婚出產報告ニ通差出方	
明治三十三年十一月十三日 市物令甲第六十二號	區 役 所
<p>今般東京府訓令第四三號ヲ以テ東京府報告例改定相成候ニ付テハ自今結婚離婚及出產月報半年報及年報ニ係ルモノハ該報告例ノ様式ニ基キ式通ヲ調製シ定期日迄ニ當應ニ差出スヘシ</p> <p>●會社工場票及兵事ニ關スル諸表一通差出方</p>	

明治三十四年二月八日勅使通達
 總發第百六十二號 區長宛
 客年十二月市訓令甲第六十二號ヲ以テ東京府報告例月
 報半年報及年報ハ二通宛差出スヘキ旨訓令相成候處右
 報告例中會社工場票及兵事ニ關スル諸表ハ一通宛ニテ
 モ差支無之右様御了承相成度此段申進候也

●統計材料蒐集事項調査課へ合議方

明治三十三年十二月七日
 市訓令甲第六十八號

内 局
 各 部 所

自今統計ニ係ル書類ヲ印刷セントスルトキ并ニ一定ノ
 表式ヲ以テ各區役所病院及各出張所等ヨリ統計材料ヲ
 蒐集スルトキハ總務部調査課へ合議スヘシ

●人口統計材料統計小票差出期日

明治三十四年一月二十八日
 市訓令甲第二十八號

明治三十一年十一月十八日東京府訓令第三十九號ニ依
 リ内閣統計局へ提出スヘキ人口統計材料統計小票ハ自
 今前月分ヲ翌月十日限り當廳へ差出スヘシ(三十四年市
 訓令甲第五號ヲ以テ
 五日ヲ十日ト改ム)

●區役所理事事件數其他ノ報告様式

明治二十七年十二月七日
 市訓令第三百三十五號

區 役 所

毎年其役所取扱ニ係ル理事事件數其他ノ件別紙様式ニ據
 リ取調翌年二月六日限り報告スヘシ

(別紙)

明治何年中理事事件數

一 收受文書數

何件

一 發送文書數

何件

計何件

<p>前年ニ比シ増減</p> <p>一 庶務掛理事件數 何件</p> <p>一 戶籍掛同 同</p> <p>一 收稅掛同 同</p> <p>一 出納掛同 同</p> <p>計何件</p> <p>前年ニ比シ増減</p> <p>一 編纂簿冊數 何冊</p> <p>明治何年十二月三十一日付屬員以下現員調</p>					
種	類	給	料	人	員
付	屬	員	何	何	人
同	何	何	錢	何	人
小	使	何	圓	何	人
同	何	何	錢	何	人
同	何	何	圓	何	人
計	何	何	錢	何	人
給	仕	何	圓	何	人
同	何	何	錢	何	人
計	何	何	錢	何	人

<p>明治何年十二月三十一日備品現在調</p>					
品	目	個	數	前	年
卓	子	何	何	何	何
椅	子	何	何	何	何
机	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何
計	何	何	何	何	何
差	引	増	減	増	減
増	減	ノ	理	由	

●法律命令ニ依リ報告スルモノノ外即時報告事項
明治三十一年十月二十五日
項市訓令第十號

區 役 所

法律命令ニ依リ報告ヲ要スルモノノ外左ニ掲クル事項ハ其時時報告スヘシ

- 一 區會議員及區會議長并代理者ノ當選人名并其異動
 - 二 區ニ屬スル臨時又ハ常設委員ノ設置及廢止并其異動
 - 三 區長ノ意見ニ依リ區會ノ議決ノ執行ヲ停止シタルトキ其顛末
 - 四 區會ノ議決ノ原本(但二部添付)及議事録ノ原本
 - 五 區ノ一時ノ借入金及償還期限三年以内ノ公債
 - 六 區事務報告及財産明細表
 - 七 右ノ外區ニ屬スル事務ニ關シ重大ト認ムル事件
- 即時報告事項敏速取扱方

明治三十一年十一月十日 助役 通規
甲 第一號

本年十月二十二日日本市訓令第十五號ニ依ル報告ハ其報告スヘキ事實ノアリタル都度直ニ報告セラルヘキハ勿論ナルモ就中第三項第四項ノ如キハ監督上必要ヲ見ル事項ニシテ又殊ニ不法行為ト認ムヘキ事件ノ生シタル場合ハ最モ敏速ニ報告相成度市參事會ノ決議ヲ經此段及通牒候也

區 役 所

●火災實況即時報告方
明治三十一年十二月一日
市訓令第八號

●區吏員異動報告様式
明治三十三年二月二十三日
市訓令甲第十二號

區 役 所

其區書記以下吏員ノ異動ハ別紙雛形ニ依リ其都度報告スヘシ

スヘシ
(別紙)

吏員異動報告

年月日	異動	職別	姓名
何年何月何日	何掛長ヲ命ス(何掛長兼務ヲ命ス) 何掛ヲ命ス(何掛兼務ヲ命ス)何掛ニ轉ス	書記	何之誰
何年何月何日	拜命月給何圓(日給何拾錢) 増給月給何圓(日給何拾錢)	雇(臨時)	何之誰
	何掛ヲ命ス(何掛兼務ヲ命ス) 何掛ニ轉ス		
	依願解雇ス(解雇ス) 死亡		

右及報告候也

年月日
市長宛

區長

第六節 雜件

●市有給吏員席次明治三十一年十月十日訓令第四號

各部局

- 本市有給吏員市長助役收ノ席次ヲ定ムルコト左ノ如シ
- 一有給吏員ノ席次ハ俸給ノ多寡ニ依リ之ヲ定ム
但區長技師ハ事務員又ハ技手ノ上席トス
 - 二同俸給内ノ席次ハ辭令ノ日付同シキモノハ前席次ニ依ル前席次ニ依ル能ハサルモノハ年長者ヲ上席トス
但減給セラレタルモノハ其首席トス
 - 三同俸給内ニ於テ轉職シタルモノハ從前ノ席次ヲ變更セス

●廳中警火番規程明治三十一年十一月二十八日訓令甲第一六八號

內 局
各 部

廳中警火番規程ヲ設クル左ノ如シ

一 冬期警火ノ必要アルヲ以テ年年十一月一日ヨリ翌年四月迄廳中各局部課各室共申合退廳後ハ壹名宛輪次ヲ以テ警火番相定ムヘシ

一 警火番ハ退廳後火鉢烟草盆等荷モ火氣アルモノハ小使ヲシテ悉ク消滅セシメタル上丁寧ニ檢査ヲ爲スヘシ

一 警火番ハ豫テ帳簿ヲ備置キ前項ノ檢査既ニ了ラハ其旨ヲ記シ署名捺印シ宿直ノ見認印ヲ請ケ然ル後退廳スヘキモノトス

一 警火番ハ翌日其帳簿ヲ主幹及各課長ノ閱覽ニ供スヘシ

● 區役所ニ充用スル土地建物ノ圖面備置方

明治二十四年五月四日
市訓令第一號

區 役 所

其役所ニ充用スル土地建物ノ圖面左ノ條項ニ據リ二通ヲ調製シ一ヲ本年七月十五日マテニ當廳へ差出シ一ヲ原簿トシテ其役所ニ備置キ増減ノ時時之ヲ加除シ且其旨届出ツヘシ

一 製圖ハ曲尺六分ヲ以テ一間トシ用紙ハ美濃紙二枚續トス

二 土地ノ概形ヲ記シ其内ニ建物ヲ圖スヘシ

三 土地ノ坪數及其所在町名番地ヲ記シ其假用ニ係ルモノハ所有者ノ氏名ヲ記スヘシ

四 市ノ經濟ニ屬スル建物ハ墨線假用ニ係ルモノハ朱線ヲ以テ圖シ其假用ノモノハ所有者ノ氏名ヲ記ス

ヘシ

五室内ノ區劃ヲ圖シ其坪數及何係何部屋等ヲ記スヘシ
六板間ハ黃敷物アル部分ハ赤盤ハ白土間ハ淡墨ヲ以
テ色別スヘシ

七門并ニ周圍ノ塀塔等ヲ圖シ且其間數ヲ記スヘシ

● 區役所建物使用認可申請方

明治三十三年四月十四日
市訓令甲第十七號

區 役 所

直接市區ノ公共事務ニ關セサルモノヲシテ往往其區役
所建物ノ一部又ハ全部ヲ使用セシムル向モ有之趣果シ
テ然ラハ施政上不都合不懨候ニ付直接市區ノ公共事務
ニ關スルモノヲ除ク外他ニ使用セシムルトキハ豫メ當
廳ノ認可ヲ受クヘシ

● 犯罪ノ告發ヲナスヘキ場合ニ事實具申方

明治三十四年一月十四日
市訓令甲第一號

區 役 所

刑事訴訟法第五十二條ニ依リ告發ヲ爲スヘキ場合ニ於
テハ事實ヲ詳記シ豫メ本市參事會ヘ具申スヘシ

● 徵兵令違反者告發方
明治三十四年四月六日
市訓令甲第二十三號

區 役 所

徵兵令違反者ニ對スル告發ニ限リ本年市訓令甲第一號
ニ據ラサルコトヲ得ヘキ義ト心得ヘシ

● 犯罪ノ告發手續心得方

明治三十四年二月十五日指令
總發第五十四號區長總代ヘ

本月七日付庶第百九十三號稟伺本年東京市訓令甲第一
號疑義ノ件ハ後段ノ通心得ヘシ

但緊急ノ場合ハ前段ニ依ルヲ妨ケス

(參 照)

庶第九十三號三十四年二月七日
區長總代何市長宛

本年訓令甲第一號ヲ以テ本職等ニ於テ刑事訴訟法第五十二條ニ據リ告發ヲ爲スヘキ場合ハ豫メ具申スヘシトノコトハ單ニ告發ヲナスヘキ場合ハ一面之ヲ具申スヘシト謂フニ止マルカ將タ具申シテ御指揮ヲ待テ而シテ告發ノ手續ヲナスヘシト謂フニ在ル乎若シ後段ノ如シトスレハ公吏ノ義務トシテ規定セラレタル法第五十二條ノ主旨ニ違反シ且手續中遲緩ノ爲メ檢舉上支障ヲ生スル場合ナキヲ保セス殊ニ徵兵令違犯告發ノ如キ徵兵官ノ資格ヲ以テ聯隊區司令官ト合議ニ係ルモノアリ則民事上ト異ニシテ具申シテ御指揮ヲ待ツヘキモノニアラスヤト考料致候ニ付疑義ノ點相伺候條御訓令ノ御主旨ノ在ル所御明示相成度此段稟伺候也

第六類 服務

●市吏員服務規程明治三十三年十一月十六日
市訓令甲第六十四號

本市吏員服務規程左之通相定メ明治二十三年六月市訓令第三號區長書記服務條規ヲ廢止ス

市吏員服務規程

- 第一條 市吏員ハ本市ニ對シ忠實勤勉ヲ主トシ秩序ヲ守リ各其職務ヲ盡スヘシ
- 第二條 市吏員ハ廉耻ヲ重シ貪汚ノ所爲アルヘカラス
- 第三條 市吏員ハ公務ニ關スル機密ヲ漏洩スルコトヲ得ス
- 裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人ト爲リ職務上ノ秘密ニ就キ訊問ヲ受タルトキハ市長又ハ市參事會ノ許可ヲ得タル件ニ限り供述スルコトヲ得

第四條 市吏員ハ職務上未發ノ文書ヲ他人ニ漏示スルコトヲ得ス

第五條 市吏員ハ市參事會ノ許可ヲ得ルニアラサレハ職務ヲ離レ及職務上居住ノ地ヲ離ルルコトヲ得ス

第六條 市吏員ハ市參事會ノ許可ヲ得ルニアラサレハ他ノ有給職務ヲ兼ネ及營利會社ノ役員トナリ若クハ報酬ヲ得テ囑托業務ニ從事シ又ハ商業ヲ營ムコトヲ得ス

第七條 市吏員ハ市參事會ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其公務ニ關シ何等ノ名義ヲ以テスルモ總テ他人ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

第八條 本規程ハ凡テ市ノ俸給ヲ得テ公務ニ從事スルモノニ適用ス

● 吏員服務心得方明治三十年八月六日
市訓令甲第十四號區長宛

吏員ノ公務ニ從事スルヤ敏活丁寧深切以テ威信ヲ保タサルヘカラス然ルニ近來輒モスレハ之ニ反スルノ舉動之レアル哉ニ相聞ケリ例之ハ出頭時限ヲ遅緩シ或ハ人民ニ接スルノ言語穩和ナラス或ハ職務スル所深切ナラス或ハ區役所出入ノ際袴ヲ着用セサルカ如キモ亦戒飾ヲ加ヘサルヘカラス就テハ自今一層其風紀ヲ肅シ節制ヲ嚴ニスルノ必要アルヲ認メリ直接監督ノ任ニ膺ル各位ニ於テ厚ク此旨趣ヲ體シ豫メ周到ナル注意ヲ加ヘ置キ萬一不都合ノ者之レアルニ於テハ毫モ假借スルコトナク其情狀ヲ具シ内申セラレヘシ

追テ區役所構内等ニアル代書人ニ於テ願何届書ヲ代書スルニ方リ種種ノ弊害ヲ生シ公衆ヲシテ迷惑ヲ成セシムルモノ有之哉ニ相聞候條是亦相當ノ取締ヲ爲サルヘシ

●區書記旅行願許可申報方
明治二十三年六月十四日
 市訓令第...號
 區 役 所

今般區長書記服務條規相定候處書記ノ養病歸省慕參等ノ旅行願ハ區長ニ於テ之ヲ許可シ其都度當廳へ申報スヘシ(三十二年二月六日市訓令第二...號及附屬員ヲ四字削除)

但書記ハ追願ト否トニ拘ハラヌ十五日以上ニ追フト
 キハ市參事會ノ許可ヲ受クル儀ト心得ヘシ

●區書記除服出仕命令並旅行願處分方

明治二十二年七月十五日
 市訓令第二十三號

區 役 所

書記ノ除服ヲ命シ及十五日(二十三年六月十四日市訓令第五號ニ依リ改メ)以內ノ旅行願ヲ許可スルハ其役所ニ於テ處分スヘシ
 但病氣其他旅行等ノ爲メ減俸ノ期ニ至リシ者ハ其時時届出ツヘシ

●市吏員除服出仕規程明治三十四年三月二十九日
 市訓令第...號

局 部 所
 區 役 所
 養 育 院
 駒 込 病 院
 消 毒 所

市吏員除服出仕規程ヲ定ムル左ノ如シ

市吏員除服出仕規程

第一條 市吏員親族ノ喪ニ遭遇シタルトキ左ノ日限ヲ

經過セハ令達ヲ俟タス出仕スヘシ

一 質養父母妻ハ 十五日間

二 繼父母祖父母曾祖父母兄弟姊妹、

子伯叔父母ハ 七日間

三 高祖父母孫ハ 三日間

四會孫玄孫甥姪從兄弟姊妹ハ 一日間
 第二條 前條第二及第三ニ該當スルモノニシテ七歳未
 滿ノ小兒ナルトキハ子ニ付テハ三日間其他ハ一日間
 トス

第三條 第一條第二條ノ日限内ト雖モ事務ノ都合ニ依
 リ出仕ヲ命スルコトアルヘシ

●市役所及所屬公廳執務時限

明治三十一年十月七日
 市告示第五十號

本市役所及所屬各公廳執務時限左ノ通定ム
 九月十一日ヨリ 午前八時ヨリ午後四時ニ至ル
 十月三十一日ヨリ 午前九時ヨリ午後四時ニ至ル
 翌年二月末日ヨリ 午前八時ヨリ午後四時ニ至ル
 三月十一日ヨリ 午前八時ヨリ午後四時ニ至ル
 七月十一日ヨリ 午前八時ヨリ正午十二時ニ至ル
 九月十一日ヨリ 午前八時ヨリ正午十二時ニ至ル
 但土曜日ハ總テ正午十二時迄トス

●市役所及所屬公廳休暇日明治三十一年十月七日
市告示第五十一號
 本市役所及所屬公廳休暇日左ノ通定ム

毎日曜日	秋季皇靈祭秋分日
一月一日	市役所開廳日十月一日
一月二日	神嘗祭十月十七日
元始祭一月三日	天長節十一月三日
新年宴會一月五日	新嘗祭十一月二十三日
孝明天皇祭一月三十日	十二月二十九日
紀元節二月十一日	十二月三十日
春季皇靈祭春分日	十二月三十一日
神武天皇祭四月三日	

●休暇中印鑑證明等事務取扱方

明治二十九年十二月二十七日
 市内訓無號區長宛

印鑑證明等ニ關スル事務ハ公衆ノ便宜ヲ計リ自今十二

月三十一日マテ取扱フヘシ

第七類 任 免

●市吏員銓衡内規明治三十三年六月八日
市訓令甲第三十六號

局 部
其 他

明治三十二年八月本市訓令甲第三十號市吏員銓衡内規左ノ通改正ス

第一條 新ニ市吏員ヲ任用セントスルトキハ市吏員銓衡委員ノ銓衡ヲ經ヘシ

但別ニ委員ヲ設ケ試験スル者ハ此限ニ在ラス

第二條 市吏員銓衡委員ハ左ノ吏員ヲ以テ組織シ市長之ヲ選任ス

助役 一人
名譽職參事會員 一人

月三十一日マテ取扱フヘシ

第七類 任 免

●市吏員銓衡内規明治三十三年六月八日
市訓令甲第二十六號

局 部
其 他

明治三十二年八月本市訓令甲第三十號市吏員銓衡内規左ノ通改正ス

第一條 新ニ市吏員ヲ任用セントスルトキハ市吏員銓衡委員ノ銓衡ヲ經ヘシ

但別ニ委員ヲ設ケ試験スル者ハ此限ニ在ラス
第二條 市吏員銓衡委員ハ左ノ吏員ヲ以テ組織シ市長之ヲ選任ス

助役 二人
名譽職參事會員 一人

技師 一人
其他市吏員 二人

第三條 市吏員銓衡ニ關スル細則ハ市長ノ定ムル所ニ依ル

●市吏員採用ノ際履歷書末尾自書記載方

明治三十三年六月十三日助役通規
內發第百十七號 區長宛

市吏員採用方上申ノ際添付有之候本人履歷書自書ヲ要スル儀ニ付爾來ハ其自書タルヲ表明スル爲メ履歷書末尾ニ左記ノ通記載セシメラレ度此段及通牒候也

左記

右之通ニ有之尙本書ハ自書セシモノニ相違無之候也

●區書記幹事以下採用履歷書末へ保薦人署名方

明治二十六年一月十一日
市內訓第一號區長兼養育院長宛

書記以下(養育院ハ幹事)備員等初メテ採用ノ節ハ其本人履

歷書末尾へ保薦人ニ署名セシムヘシ

●區役所備員進退專行方明治三十一年五月十七日
市訓令甲第三七號

區役所

備員ノ進退ハ其役所ニ於テ之ヲ行フヘシ

(三十三年二月三日市訓
令甲第四號ヲ以テ改正)

●兵役ニ召集セラレタル市吏員休職方

明治二十七年九月八日
市告示第四十八號

兵役ニ召集セラレタル本市吏員休職ヲ命スルノ件市會ノ議決ヲ經テ左ノ通之ヲ定ム

豫備後備ノ軍籍ニアル本市吏員附屬員ニシテ戰時若クハ
事變ニ際シ召集セラレタルトキハ其間休職ヲ命スルコトヲ得

但休職ヲ命シタル翌月ヨリ俸給ヲ支給セス休職中ノ日數ハ在職年數ニ算入ス

●有給吏員罹病辭職ノ際事實取調上申方
明治二十八年八月十三日市內訓第十三號
 區長 委員會委員長 水道事務所掛長 宛
 本市有給吏員(雇員其他雜給ヲ以テ)ニシテ傷疾疾病ノ故ヲ以テ辭表ヲ差出スモノハ自今其病症病況及豫後ノ經過ヲ詳悉シタル醫師ノ診斷書ヲ添付セシメ且事實職務ニ堪ヘサル傷疾疾病ナルヤ否ヤ意見ヲ附シ上申セラルヘシ

第八類 給 與

●俸給支給規則明治三十二年四月十三日
 市告示第三十四號
 本市會ノ議決ヲ經明治二十七年市告示第五十號俸給支給規則左ノ通り改正ス

俸給支給規則

第一條 俸給ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ支給ス
 一年俸ハ十二分シテ毎月之ヲ支給ス
 二年俸月給日給ハ毎月二十一日之ヲ支給ス
 但日給ハ前月十六日ヨリ其月十五日迄ノ分ヲ計算シテ之ヲ支給シ毎年三月十六日ヨリ三月三十一日迄ノ分ハ四月四日之ヲ支給シ休日ニ當ルトキハ繰下ルモノトス
 三雇員ノ日給ハ日曜大祭日其他休日ヲ算入ス

第二條 本市吏員ニシテ俸給ヲ受クル者死亡シタルト
 キハ年俸ノモノハ本俸ノ四分ノ一月給ノモノハ本給
 ノ三ヶ月分ヲ其遺族(死亡ノ同時同戶籍ニアルモノ)ニ
 支給ス
 但雇員以下ノ吏員ハ勤績滿二年以上ニシテ月給八
 圓以上ノモノニ限リ月給二ヶ月分ヲ支給ス
 第三條 新任ノトキハ就職ノ日ヨリ増俸減俸ノトキハ
 發令ノ翌日ヨリ其俸給ヲ計算ス
 轉任者ノ俸給ハ其發令ノ當日迄前任應ニ於テ支給シ
 翌日以降ノ分ハ後任應ニ於テ支給ス
 第四條 他應ヘ轉任シタルモノノ俸給ハ第一條ノ支給
 定日ニ拘ラス其際發令當日迄ノ分ヲ支給ス俸給支給
 定日以後他應ヨリ轉任シ來リタルトキハ後任應ニ於
 テ其際其月ノ日數ニ應スル俸給ヲ支給ス

第五條 他應ヘ轉任セルモノノ俸給過渡アルトキハ前
 任應ニ於テ其際之ヲ返納セシム
 第六條 廢職退職又ハ死去スル時ハ其際年俸ハ月割計
 算ヲナシテ一ヶ月分ヲ月給ハ當月分ノ全額ヲ支給ス
 但不都合ノ所爲アリテ免職シタルモノハ發令當日
 迄ノ分ヲ日割ヲ以テ支給ス
 第七條 廢職退職者事務引繼又ハ殘務整理ノ爲メ特ニ
 命ヲ受ケ翌月以降ニ涉リ執務スルトキハ其間日割ヲ
 以テ尙従前ノ俸給ヲ支給ス
 第八條 私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト三十日ヲ踰
 ヌルモノハ其以後俸給ノ半額ヲ減ス
 第九條 病氣ノ爲メ執務セサルコト九十日ヲ踰ユルモ
 ノハ其以後俸給ノ半額ヲ減ス
 但公務ノタメ傷病ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタル者

ハ此限リニ非ス

第十條 第八條若クハ第九條ニ該當セスト雖モ兩條ノ事故相續テ起リ執務セサルコト九十日ヲ踰ユルモノハ其以後俸給ノ半額ヲ減ス

第十一條 本則第八條及第九條ニ依リ減俸ノ者廢職退職又ハ死亡スルトキハ其減給ニ係ル當月分ノ全額ヲ支給ス

第十二條 俸給ヲ支給スルニ當リ計算上厘位ノ端數ヲ生スルトキハ四捨五入シテ錢位ニ止ム

但年俸ノモノ月割額四捨五入ノ結果其年俸額ニ過不足ヲ生スルトキハ年度ノ終月ニ至リ差引計算シテ之ヲ支給ス

日割計算ノ法ハ其月ノ現日數ニ依ル

附則

第十三條 本則ハ明治三十二年六月一日ヨリ施行ス

●市吏員増俸方明治三十一年十月七日市告示第四十九號

本市會ノ議決ヲ經市吏員増俸ノ件ヲ定ムルコト左ノ如シ

一月額二十五圓以上ノ給料ヲ受クル市吏員ハ每級在職

滿一ケ年ヲ踰ユルニアラサレハ増俸スルコトヲ得ス

但一ケ年以内ト雖モ拔擢増俸ハ查覈ノ上之ヲ爲ス

コトヲ得(三十四年二月六日市告示第六號ヲ以テ但書追加)

●豫備後備ノ軍籍ニ在ル吏員演習召集中俸給支

給方明治三十三年九月七日市長指令會發第千二百二十四號京橋區長伺

本年八月十七日附庶第一三一八號上申陸海軍豫備後備

ノ軍籍ニ在ル區書記及雇員ニシテ就職中演習ノ爲メ召

集セラレタルトキ俸給支給方ノ件ハ本市俸給支給規則

第八條ニ據リ支給スヘシ

●公務ノ爲メ傷疾缺勤ノ際日給雇給支給方

明治三十三年一月十七日勅使通牒
會發第二十七號區長勸込病院消毒所宛

日給雇ノ者公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル
場合ニ於ケル給料ノ支給方左之通決定相成候條爲心得
此段及通牒候也

日給雇ノ者ニシテ公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ
罹リ執務スル能ハサルトキハ其間給料ヲ支給スルモノ
トス

●吏員退職當月中再任シタルモノノ俸給支給方

明治三十一年六月二十日書記官通牒
内四乙第六千八百八十四號ノ二區長宛

俸給支給規則第四條ニヨリ退職セシ當月分ノ俸給全額
ヲ支給セラレシモノヲ其月内ニ新ニ採用セシ場合ノ月
俸支給方ニ付往照會ノ向モ有之候處右等ノ場合ト雖
モ同則第三條ニヨリ相當額日割支給シ可然等ニ候爲念

此段及通牒候也

●旅費支給規則明治三十一年十二月十四日
市告示第七十一號

本市會ノ議決ヲ經明治二十五年市告示第十五號旅費支
給規則左ノ通改正ス

旅費規則

第一條 旅費ハ本市吏員及名譽職員等公務ニ因リ旅行
スルトキ之ヲ支給ス

第二條 旅費ヲ分テ五等トシ別表定ムル所ニ從ヒ順路
ニ因リ之ヲ支給ス

但在官者ニ事務ヲ囑托スル場合ニ於テハ特ニ本官
相當ノ旅費ヲ支給スルコトヲ得

第三條 汽車旅行ハ哩數ニ應シ汽車賃ヲ海路旅行ハ海
里數ニ應シ船賃ヲ陸路旅行ハ里數ニ應シ車馬賃ヲ支
給ス

宿泊料ハ夜數ニ應シ日當ハ日數ニ應シテ之ヲ支給ス
但海路旅行ハ宿泊料ヲ支給セス

第四條 市應用ノ船車馬ヲ以テ旅行スルトキハ本則ノ
汽車賃船賃車馬賃ヲ支給セス

第五條 旅行ノ任務又ハ情況ニ因リ定額ノ汽車賃船賃
車馬賃ヲ以テ支辨シ難キ場合ハ實費ヲ以テ支給スル
コトヲ得

強雨積雪又ハ道路險惡等ノ爲メ定額ノ車馬賃ニテ支
辨シ難キ場合ハ定額二倍以内ノ車馬賃ヲ支給スルコ
トヲ得

第六條 汽車賃船賃車馬賃ハ各其經過路程ノ總數ヲ合
算シテ之ヲ支給ス

但一位未滿端數ノ路程ハ算入セス

第七條 汽車旅行若クハ海路旅行中兩年度ニ跨リ其區

分判明セサル時ハ最近ノ到達地ニ若シタル日ヲ以テ
其路程ヲ區別シ計算ス

第八條 陸路六里未滿汽車十哩未滿海路十海里未滿ノ
旅行ニハ日當ヲ支給セス

但公務ノ都合ニ依リ宿泊シタルトキハ日當及宿泊
料ヲ支給ス

第九條 本市内ヲ巡回スルトキハ一日壹圓以内ノ車馬
賃ヲ支給スルコトヲ得

第十條 測量及土木工事等ノ爲メ現場ヲ巡回スル有給
吏員ノ旅費ハ市參事會ニ於テ特ニ其額ヲ定メ支給ス
ルコトヲ得

第十一條 市内應衛ト市外應衛ト在勤ヲ換フルトキハ
舊任地ヨリ新任地迄汽車賃船賃及車馬賃ニ限り定額
ノ二倍ヲ支給ス

第十二條 新任用スル爲メ召喚スルトキハ新任資格ニ相當ノ旅費ヲ支給ス

旅費額表(三十二年八月三日市告示第(六十二號)ヲ以テ旅取費改正)

等	級	旅取費	船賃	車馬賃	宿泊料	日當
一等	市長、助役、收入役、名譽職員	六錢	二海里	二里	一夜	一日
二等	區長、部長、技師	五錢	一海里	一里	一夜	一日
三等	事務員、書記、掛手、技手、補	四錢	一海里	一里	一夜	一日
四等	備員	參錢	一海里	一里	一夜	一日
五等	番人、給仕、小使等ノ類	貳錢	一海里	一里	一夜	一日

●市内巡回出張車馬賃支給細則

明治三十四年四月十二日
市訓令甲第二十四號

内 局
各 部 所

本市旅費規則第九條ニ據リ市内巡回出張車馬賃支給細則左ノ通り相定ム

●市内巡回出張車馬賃支給細則

第一條 市吏員視察若シクハ調査検査監督其他特命ニ依リ本市内ヲ巡回又ハ出張シタルトキハ一日毎ニ其順路ノ路程ヲ合算シ第一別表ノ定ムル處ニ據リ車馬賃ヲ支給ス

市役所所在ノ區内ヲ巡回又ハ出張シタルトキハ一日金貳拾錢ヲ支給ス

前各項ノ巡回又ハ出張ノ時間一日四時間以上ニ亙リ正午ヲ過キタルトキハ特ニ金拾五錢ヲ増給ス

第二條 巡回ヲ常務トスル者ニ在テハ至急復命ヲ要スルノ外并第一條ニ該當スルモノト雖人力車ヲ供給シタル場合ニ於テハ本則ノ車馬賃ヲ支給セサルモノト

●事變ノ際區長以下出張旅費一時繰替渡方

明治二十八年十月十日書記官通規
内一乙第二千六百三十六號ノ二區長宛

區長以下ノ出張旅費ハ事變ニ際シ陸海軍兵臨時召集等ノ場合ニ限り一時區役所費月額内ヨリ繰替渡ヲ爲シ精算ノ上御請求相成可然ト存候此段及通牒候也

●測量及土木工事現場巡回旅費支給方

明治三十二年一月十七日
市訓令 甲 第二二號

内 局
各部

旅費規則第十條ニ該當スルモノニ在テハ當分ノ内左ノ割合ニ依リ支給ス

事務員書記技手技手補 一日五拾錢

雇員 一日四拾錢

番人給仕小使等ノ類 一日參拾錢

但現場へ往復ノ車馬賃汽車賃ハ其里哩數ニ應シ定額ヲ支給ス宿泊セサル場合ニハ定額ノ日當ヲ支給シ數町村ニ涉ル現場ノ往復ニハ車馬賃等ヲ支給ス

●市吏員退隱料條例 明治二十八年八月九日
市制第七十七條ニ依リ市吏員退隱料條例ヲ設ケ第二百一十一條ニ依リ内務大臣ノ許可ヲ受ケ左ノ通り之ヲ定ム

市吏員退隱料條例
第一條 本市吏員ニシテ俸給ヲ受クル者退職シタルトキハ本條例ノ規定スル所ニ依リ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ有ス

但傭員其他雜給ヲ以テ支辨スル吏員ハ之ヲ除ク
第二條 在職滿十五年以上ノ者左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ終身退隱料ヲ給ス

一年齡六十歳ヲ超ヘ退職ヲ許シタルトキ

二 傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ其職務ニ堪ヘサルカ
 爲メ退職ヲ許シタルトキ

三 廢職又ハ事務ノ都合ニ依リ退職ヲ命ジタルトキ

第三條 職務ニ因リ傷疾ヲ受ケ又ハ健康ニ有害ナル感
 動ヲ受クルヲ顧ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲
 メニ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準ス
 ヘキモノニシテ其職務ニ堪ヘサルカ爲メ退職ヲ許シ
 タルトキハ前條ノ年限ニ滿タサルモ終身退職料ヲ給
 シ尙其最下金額十分ノ七マテノ増加退職料ヲ給ス

第四條 退職料年額ハ退職現時ノ俸給ト在職年數トニ
 依リ之ヲ定ム即チ在職十五年以上十六年未滿ニシテ
 退職シタル者ハ俸給年額ノ二百四十分ノ六十トシ十
 五年以後滿一年毎ニ二百四十分ノ一ヲ加ヘ滿四十年
 ニ至テ止ム

但在職四十年以上ノ者ニ給スヘキ退職料ハ四十年
 ノ額又ハ十五年未滿ノ者ニ給スヘキ退職料ハ十五
 年ノ額トス退職料年額圓位未滿ノ數ハ圓位ニ充テ
 シム

第五條 在職年數ハ就任ノ月ヲ以テ起算シ退職ノ月ヲ
 以テ終リトス

但明治二十二年七月以前ニ就任シタル者ハ同年同
 月ヨリ起算ス

第六條 左ニ掲クル月數ハ在職年數中ヨリ除算ス

一年齡二十歲未滿者ノ月數

二 備員其他雜給ヲ以テ支辨スル吏員勤務ノ月數

三 自己ノ便宜ニ依リ退職シ又ハ不都合ノ所爲アリテ
 免職シ及官吏失職ニ當ルヘキ刑事裁判確定シ之カ
 爲メ退職シタル後再ヒ就職シタル者ニ在テハ其前

職ノ月數

第七條 退隱料ヲ受クル者重罪ノ刑ニ處セラレ若クハ日本臣民タルノ分限ヲ失ヒ又ハ在職中ノ犯罪退職後ニ發覺シ刑法ニ依リ官吏失職ニ當ルヘキ刑事裁判確定シタルトキハ直ニ退隱料ノ支給ヲ止ム

第八條 退隱料ヲ受クル者公權ヲ停止セラレタルトキハ其間退隱料ノ支給ヲ停止ス

第九條 年齢未タ六十歳ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者又ハ不都合ノ所爲アルニ依リ免職シタル者及官吏失職ニ當ルヘキ刑事裁判確定シ之カ爲メ退職シタル者ハ退隱料ヲ受クルノ資格ヲ失フ

第十條 退隱料ヲ受クル者再ヒ職ニ就キ滿一年以上在職シタル後退職シタルトキハ左ノ區別ニ依リ退隱料ヲ給ス

一 退職現時ノ俸給前後相同シカラサルトキハ前職年數ヲ後職ノ年數ニ通算シ後職ニ對スル退隱料額ト前職ノ退隱料額トヲ比較シ其多キ方ヲ給ス

二 退職現時ノ俸給前後相同シキトキハ在職年數ニ依リ退隱料ヲ增加ス

但前職十五年未滿ニシテ退隱料ヲ受ケタル者在テハ前後通算シテ十六年以上ニ至ラサレハ增加セス

第十一條 備員其他雜給ヲ以テ支辨スル吏員ニシテ第三條ニ該當スル者ハ退職現時ノ給料月額四分ノ一ヲ終身支給スルコトヲ得

第十二條 退隱料支給ノ期ハ退職ノ翌月ヨリ始マリ死亡ノ月ヲ以テ終ルモノトス

第十三條 退隱料ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後三

箇年内ニ請求セサレハ其權利ヲ拋棄シタルモノトス

第十四條 退隱料ハ賣買讓與質入書入スルコトヲ得ス

第十五條 在職滿一年以上十五年未滿ノ者第二條ニ掲

クル事項ニ當リタルトキハ一時金ヲ給與ス

但一時金ヲ受ケタル者再ヒ就職シタルトキハ其在

職年數ハ再就職ノ月ヨリ起算ス

一時金ハ退職現時ノ俸給半箇月分ヲ在職年數ニ乗シ

タル額トス

退隱料ヲ受クル者ハ本條ノ一時金ヲ支給セス

●市吏員退隱料條例施行規則明治二十八年八月九日

本市會ノ議決ヲ經テ市吏員退隱料條例施行規則左ノ通

之ヲ定ム

市吏員退隱料條例施行規則

第一條 市吏員退隱料條例第二條第三條及第十一條ニ

依リ退隱料ヲ受クヘキ者ハ退隱料請求書ヲ當廳ニ差
出スヘシ

第二條 退隱料請求書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一 在職中ノ履歷書

二 市町村長(東京市京都市大阪市長)ノ證明シタル戸籍調査

第三條 市吏員退隱料條例第三條第十一條ニ依リ退隱

料ヲ請求スル者ハ前條ニ掲クル書類ノ外左ノ書類ヲ

以テ其事實ヲ證明スヘシ

一 現認證書又ハ之ヲ證スル公文ノ寫若クハ口供書

二 醫師ノ診斷書

第四條 市吏員退隱料條例第十五條ニ依リ一時金ヲ受

クヘキ者ハ一時金請求書ニ在職中ノ履歷書ヲ添付シ

當廳ニ差出スヘシ

第五條 退隱料及一時金ノ請求ヲ許可シタルトキハ退

隠料證書又ハ一時金辭令書ヲ交付ス

第六條 退隠料ハ其年額ヲ二分シ四月十月ニ其前六箇月分ヲ支給ス

但權利消滅若クハ支給停止ノトキハ本條ノ期限ニ拘ラス之ヲ支給ス

一時金ハ辭令書交付ノ際之ヲ支給ス

第七條 退隠料ヲ受クル者其金額ヲ受領セントスルトキハ退隠料證書及ヒ現住市町村長(東京市 京都市 大阪市 長)ノ生存證明書ヲ以テ受領權アルコトヲ證明スヘシ

第八條 退隠料ヲ受クル者本市以外ニ轉住シ其地ニ於テ退隠料ヲ受領セントスルトキハ其市町村長(京都市 長)ノ承認ヲ得支給期月三十日前ニ願出テ許可ヲ受ヘシ

前項ノ場合ニ於テハ其市町村役場(京都市 大阪市 區役所)ニ委託

シテ之ヲ支給ス

第九條 市制第七十九條及市吏員退隠料條例第七條及

第八條ニ當リタル者ノ退隠料支給ノ終始ハ左ノ如シ

一官職又ハ府縣郡市町村及公共組合ノ職務ニ就キ給料ヲ受クルトキハ其給料ノ支給ヲ始ムル日ノ前日ヲ以テ支給ヲ終リ其退職シタルトキハ給料ノ支給ヲ終リタル日ノ翌日ヨリ支給ヲ始ム

二重罪ノ刑ニ處セラレ又ハ在職中ノ犯罪退職後ニ發

覺シ官吏失職ニ當ルヘキ刑ニ處セラレタルトキハ

確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日日本臣民ノ分限ヲ失

ヒタルトキハ其失ヒタル日ヲ以テ支給ヲ終ル

三公權ヲ停止セラレタルトキハ禁錮ノ刑ニ處セラレ

若クハ監視ニ付セラレルヘキ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日ヲ以テ支給ヲ終リ刑期滿限ノ日ノ翌日ヨリ

支給ヲ始ム

日割計算ノ法ハ其月ノ現日數ニ依ル

但厘位未滿ノ端數ハ四捨五入ス

第十條 市吏員退隱料條例第三條ニ掲クル最下金額十分ノ七マテノ増加退隱料ノ等差ハ左ノ如シ

但一人ニテ二項以上ニ該當スルトキハ其重キニ依リ支給ス

第一項 兩眼ヲ盲シ又ハ二肢以上ヲ亡ヒ若クハ之ト

同等ナル傷疾疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ七

第二項 前項ニ準スヘキ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹

リタルトキ 十分ノ六

第三項 一肢ヲ亡シ又ハ二肢ノ用ヲ失ヒ若クハ之ト

同等ナル傷疾疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ五

第四項 前項ニ準スヘキ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹

リタルトキ

十分ノ四

第五項 一眼ヲ盲シ又ハ一肢ノ用ヲ失ヒ若クハ之ト

同等ナル傷疾疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ三

第六項 前項ニ準スヘキ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹

リタルトキ 十分ノ二

傷疾疾病ノ等差ハ別ニ之ヲ定ム

第十一條 退隱料ヲ受クル者官職又ハ府縣郡市町村及

公共組合ノ職務ニ就キ給料ヲ受クルトキハ其官職名

及給料ノ支給ヲ開始セラレタル日又解職セラレタル

トキハ解職ノ月日及給料ノ支給ヲ停止セラレタル日

ヲ當應ニ届出ヘシ

第十二條 退隱料ヲ受クル者死去シ若クハ權利消滅シ

タルトキハ其遺族又ハ本人ヨリ當應ニ届出退隱料證

書ヲ返納スヘシ

第十三條 退隠料ヲ受クル者禁錮以上ノ刑ニ處セラレ
 又ハ監視ニ付セラレヘキ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル
 トキハ其家族若クハ親族ヨリ裁判宣告書ノ寫ヲ添ヘ
 當廳ニ届出ヘシ

第十四條 水火災盜難等ニ由リ退隠料證書ヲ亡失シタ
 ル者ハ其事由ヲ具シ當廳ニ届出ヘシ

前項ノ届出ヲ受クルトキハ其事實ヲ調査シ退隠料證
 書ノ謄本ヲ作り之ヲ交付ス

退隠料證書ノ謄本ハ本證書ト同一ノ効力アルモノト
 ス

第十五條 退隠料ヲ受クル者ハ自己ノ印影ニ市町村長
(東京市京都市大阪市神戸市)ノ證明ヲ受ケ當廳ニ届出ヘシ

但爾後變更シタルトキハ其都度本文ノ手續ヲ爲ス
 ヘシ

第十六條 退隠料ヲ受クル者轉籍又ハ改氏名ヲ爲シタ
 ルトキハ市町村長(東京市京都市大阪市神戸市)ノ證明ヲ受ケ當廳ニ
 届出ツヘシ其改氏名ノ届書ニハ退隠料證書ヲ添付シ
 證書ノ裏面ニ其事實ノ登記ヲ受クヘシ

●市吏員傷疾疾病等差例明治二十八年八月九日
 市告示第三十九號
 本市會ノ議決ヲ經テ市吏員傷疾疾病等差例左ノ通之ヲ
 定ム

市吏員傷疾疾病等差例

- 第一條 市吏員退隠料條例施行規則第十條ノ各項ニ該
 當スヘキ傷疾疾病ノ等差ハ左ノ規定ニ從フ
- 第二條 偏眼ヲ盲スル者全鼻ヲ失スル者ハ共ニ第五項
 トシ之ニ偏耳ノ官能ヲ併セ廢スル者ハ第四項トス
- 第三條 兩耳ノ官能ヲ廢スル者ハ第四項トス
- 第四條 偏眼兩耳ノ官能ヲ併セ廢スル者ハ輕重ヲ酌量

シテ第二項若クハ第三項トス
 第五條 一眼ヲ失ヒ他ノ一眼暗昧シ僅ニ自己ノ用ヲ辨シ得ル者ハ第二項トス
 第六條 咀嚼言語ノ兩機ヲ併セ廢スル者ハ輕重ヲ酌量シテ第一項若クハ第二項トス
 第七條 咀嚼ノ用ヲ廢スル者ハ輕重ヲ酌量シテ第二項若クハ第三項トシ幾分ノ障礙ヲ遺ス者ハ第五項其輕キ者ハ第六項トス
 第八條 精神亡失或ハ錯乱シテ常ニ看護ヲ要スル者ハ第一項トス
 第九條 癡呆若クハ健忘症ヲ遺シ常ニ看護ヲ要セサル者ハ輕重ヲ酌量シテ第三項若クハ第五項トス
 第十條 神經痛ヲ遺シ常ニ看護ヲ要セサル者ハ輕重ヲ酌量シテ第五項若クハ第六項トス

第十一條 言語ノ機能ヲ廢スル者ハ第三項トシ言語ノ機能ニ障礙ヲ遺ス者ハ輕重ヲ酌量シテ第五項若クハ第六項トス
 第十二條 胃腸膀胱等ニ瘻管ヲ遺ス者ハ輕重ヲ酌量シテ第二項若クハ第三項トス
 第十三條 腸歇爾尼亞ヲ遺ス者ハ輕重ヲ酌量シテ第五項若クハ第六項トス
 第十四條 陰莖或ハ睪丸ヲ全失スル者ハ第三項トス
 第十五條 陰莖ヲ半失スル者偏睪丸ヲ失スル者共ニ第六項トス
 第十六條 頸項背腰諸筋ノ作用ニ障礙ヲ遺ス者ハ輕重ヲ酌量シテ第五項若クハ第六項トス
 第十七條 一肢ヲ失ヒ且他肢ノ作用ヲ全廢スル者ハ第一項トス

第十八條 一 上肢ヲ失フ者ハ肩關節ヨリ腕關節ニ至ル間何レノ部位ヲ論セス第三項トス

第十九條 肩關節ヨリ腕關節ニ至ルノ間ノ關節作用ヲ廢スルモ全肢ノ作用ヲ廢スルニ至ラサル者ハ第六項トス

第二十條 一手ニ於テ四指以上ヲ失スル者ハ第四項トシ五指瘖著若クハ強硬等ノ爲メニ把握採摘ノ用ヲ廢スル者ハ第五項トス

第二十一條 一手ニ於テ四指或ハ五指ノ各一部ヲ失スルモ尙把握ノ用ヲ爲シ得ル者ハ第六項トス

第二十二條 一手ニ於テ拇指示指ヲ併セ失スル者或ハ拇指示指ヲ除キ他ノ三指ヲ失スル者ハ第六項トス

第二十三條 一下肢ヲ失スル者股關節ヨリ踝關節ニ至ル間ハ其部位ニ依リ輕重ヲ酌量シテ第二項若クハ第三項トス

三項トス

第二十四條 股關節ヨリ踝關節ニ至ル間ノ作用ニ障礙ヲ遺ス者ハ輕重ヲ酌量シテ第五項若クハ第六項トス

第二十五條 跗骨ヨリ蹠骨ニ至ルノ部ヲ失スル者ハ何レノ部位ヲ論セス第四項トス

第二十六條 一足ニ於テ五趾ヲ失スル者ハ第五項トス

第一趾ヲ併セ三趾ヲ失スル者ハ第六項トス

第二十七條 不治病ノ爲メ常ニ看護ヲ要スル者ハ輕重ヲ酌量シテ第一項若クハ第二項トス

第二十八條 不治病前項ヨリ輕キモ歩行スル能ハサル者ハ第三項トス

第二十九條 不治病前項ヨリ輕キモ自己ノ用辨ニ妨碍アル者ハ第四項トス

第三十條 不治病前項ヨリ輕キモ營業ヲ爲シ難キ者ハ

第五項トス

第三十一條 不治病前項ヨリ輕キモ營業ニ妨ケアル者
ハ第六項トス

●市吏員以下宿直夜勤賄支給方

明治三十三年四月十九日
市訓令甲第十九號

局 部
區 役 所

市吏員以下宿直賄及臨時夜勤賄ハ左ノ各項ニ據リ代料
又ハ現品ヲ以テ之ヲ支給ス

但明治二十六年三月市訓令第六十九號ハ廢止ス

一宿直シタルモノ 二賄

二宿直員ニシテ其事務ニ付徹夜勤務シタルモノ 三賄

三退廳時限ヨリ引續キ午後八時過迄勤務シタルモノ

四同上午後十二時過迄勤務シタルモノ 一賄
五同上徹夜勤務シタルモノ 二賄
三賄

●市吏員以下宿直夜勤賄支給額

明治三十三年四月十九日
市訓令甲第二十號

局 部
區 役 所

市吏員及雇員以下賄費支給額本年四月一日ヨリ左ノ通
改定ス

一市吏員及雇員ハ宿直夜勤共一賄ニ付金八錢
一使丁給仕ハ同上金五錢

●備人被服給與規程 明治三十二年五月十六日
市參事會議決第九千二百七十一號
備人被服給與規程

第一條 被服給與ヲ分チテ現品渡代金渡ノ二種トシ現

品渡ハ別表ニ依リ支給ス
 第二條 給與品ハ別表ノ通保存期限ヲ定メ其期限ヲ經過シタルトキハ之ヲ附與ス
 但徽章アル卸ハ此限ニアラス
 第三條 解職死亡ノトキハ保存期限内ニ係ル給與品ハ返納セシム
 第四條 給仕ニ給與スル靴ハ代金渡トシ毎年六月十二月ノ二期ニ分チ給與ス

現品支給表

種別	品名		個數	保存期限
	給仕	小使		
帽	夏服	冬服	一個	一個年 自翌年九月
	夏服	冬服	四個	四個月 自翌年五月
	夏服	冬服	四個	四個月 自翌年五月

●市吏員給料(明治三十一年十月七日市制第七十六條ニ依リ市長助役收入役其他市吏員ノ給料額ヲ定ムルコト左ノ如シ)

- 一 市長 年俸 五千元
- 二 助役(第三十三年十一月一日市告示(第百一號)ヲ以テ本項改正) 年俸
 - 一級 貳千五百圓
 - 二級 貳千參百圓
 - 三級 貳千圓
- 三 收入役 年俸 千五百圓
- 四 部長(第三十三年七月十三日市告示(第七十七號)ヲ以テ本項改正)

冬服 二組 八個月 自翌年五月

五	
事務員	月俸
(三十三年三月二十七日市告示 第二十五號ヲ以テ本項改正)	
一級	千四百圓
二級	千貳百圓
三級	千 百 圓
四級	千 圓
一級	七拾五圓
二級	六 拾 圓
三級	五 拾 圓
四級	四拾五圓
五級	四 拾 圓
六級	參拾五圓
七級	參 拾 圓

六	
技	年俸
(第三十三號七月十三日市告示 第七十七號ヲ以テ本項改正)	
一級	貳千四百圓
二級	貳千貳百圓
三級	貳 千 圓
四級	千八百圓
五級	千六百圓
六級	千四百圓
七級	千貳百圓
八級	貳拾五圓
九級	上拾八圓
十級	下拾貳圓

但事務練熟優等ナルモノハ特別ヲ以テ漸次
百圓迄増俸スルコトアルヘシ

八級	千 圓
九級	九 百 圓
十級	八 百 圓
十一級	七 百 圓
十二級	六 百 圓
七 技手、技手補	第三十三號市令(明治三十三年三月二十七日市令修正)
技手ノ月俸ハ事務員ノ給料額技手補ノ月俸ハ	同十級俸ノ規定ヲ適用ス
●區長及書記給料	明治三十一年五月十七日市令
本市會ノ議決ヲ經明治二十二年七月市條例第二號區長	及書記ノ給料額ヲ改定スルコト左ノ如シ
一 區 長	第三十二號市令(明治三十三年十二月五日市令修正)
年俸	千二百圓
一級	千二百圓

二級	千 百 圓
三級	千 圓
四級	九 百 圓
五級	八 百 圓
二 書 記	第三十三號市令(明治三十三年四月十五日市令修正)
月俸	一級 五十圓
一級	五十圓
二級	四十五圓
三級	四十圓
四級	三十五圓
五級	三十圓
六級	二十五圓
七級	二十圓
八級	十八圓

九級 十五圓
十級 十二圓

但事務練熟優等ナルモノハ特別ヲ以テ漸次
六十五圓迄増俸スルコトアルヘシ

●區役所備員給料額明治三十一年五月十七日
市內訓甲第二號區長宛
備員給料ハ一ヶ月拾五圓ヲ超過スルヲ得サル義ト心得
ラルヘシ(三十三年十月五日市內訓甲第七
號ヲ以テ拾貳圓ニ拾五圓ニ改ム)
但制限以外ノ給料ヲ要スルトキハ其狀ヲ具申スヘシ
(三十二年七月七日市內訓
甲第四號ヲ以テ但書追加)

第二編 類規

第一類 學事

●就學ニ關スル事項區長ニ委任

明治三十三年十二月十四日
市告示第百八號

明治三十三年十一月東京府令第八十六號小學校令及小
學校令施行規則實施規程中就學ニ關スル事務ハ區長ニ
委任シ掌理セシム

●小學校教員除服達ニ關スル事項區長ニ委任

明治三十四年三月二十八日
市訓令甲第十五號

區 役 所

明治三十三年十一月東京府令第八十六號小學校令及小學
校令施行規則實施ニ關スル規程中第八十條乃至第八十
五條及第八十九條並ニ本年一月同令第一號市立小學校長

及教員ノ除服達ニ關スル事項ハ來ル四月一日ヨリ區長ニ委任シ掌理セシム尙ホ本文ノ趣各市立小學校長及教員並ニ私立小學校設立者へ通達スヘシ

●市學務委員人員及任期明治二十四年三月二日市告示第十一號

小學校令第七十二條ニ依リ本市ニ置クヘキ學務委員ハ左ノ人員ヲ以テ之ニ充テ市公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ出ツル委員ハ其任期ヲ四年トス(二十六、五、一、日市告示第一三十四號ヲ以テ及教員ヨリ出ツル委員「三」改ム)

市參事會員ヨリ

一名

市會議員ヨリ

四名

市公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ

三名

市立小學校男教員ヨリ

四名

●區學務委員條例明治二十四年五月十九日市條例第一九號

區學務委員條例市會ノ議決ヲ經内務大臣文部大臣ノ許

可ヲ受ケ左ノ通之ヲ定ム

區學務委員條例

第一條 教育事務ノ爲メ本市每區ニ學務委員ヲ置ク

第二條 委員ノ數ハ每區四人以上トシ其員數ハ區會之ヲ定ム

但市立小學校男教員ヨリ出ツル者ハ委員總數ノ四分一ニ下ルコトヲ得ス

第三條 委員ハ區會議員ト其區居住ノ市公民中選舉權ヲ有スル者及其所在ノ市立小學校男教員トヲ以テ之ヲ組織シ委員中互選ヲ以テ一名ヲ委員長トス但委員ハ名譽職トス

第四條 委員中區會議員ヨリ出ツル者及選舉權ヲ有スル市公民ヨリ出ツル者ハ區會之ヲ選舉シ教員ヨリ出ツル者ハ「東京府知事」之ヲ任免ス

但區會議員ノ任ニ在ル者ハ市公民タルノ資格ヲ以テ委員ニ選舉セララルコトヲ得ス又市公民ヨリ出タル委員ニシテ區會議員トナリタルトキハ委員ノ任ハ消滅スルモノトス(第二十六年五月一日市條例第一號ヲ以テ但書追加)

第五條 委員中選舉權ヲ有スル市公民ヨリ出ツル者ハ其任期ヲ四年トス

但任期滿限ノ後再選セララルコトヲ得

(第二十六年五月一日市條例第一號ヲ以テ本條中改正)

附 則 (第二十六年五月一日市條例第一號ヲ以テ附則追加)

第六條 現在委員中區會議員ニシテ市公民タルノ資格ヲ以テ委員ニ選舉セララル者及市公民ヨリ出タル委員ニシテ區會議員タル者其任期間委員ノ任ハ消滅セサルモノトス

●區學務委員費用負擔明治二十四年五月十九日市告示第二十二號

區學務委員ニ於テ要スル費用負擔ノ件市會ノ議決ヲ經左ノ通之ヲ定ム

小學校令第五十條但書ニ據リ區ノ學務委員ニ於テ國ノ教育事務ヲ執行スルカ爲メニ要スル費用ハ其區ノ負擔トス

●高等小學校ヲ區ノ所屬トシテ設置

明治二十四年三月二日市告示第十號

地方學事通則及小學校令實施ノ上從來市内ノ各區ニ在ル高等小學校ハ同令第三十六條ニ準據シ其學校所在區ノ所有トシテ引續設置ノ儀東京府知事ノ許可ヲ得タリ但下谷區設置ノ下谷高等小學忍岡分校ハ本文實施ノ日ヨリ忍岡高等小學校ト改稱ス

●市尋常小學校建設費補給方法

明治三十三年二月十四日市訓令甲第八號

區 役 所

明治三十二年七月東京市訓令甲第二十四號東京市尋常小學校建設費補給方法左ノ通改定ス

東京市尋常小學校建設費補給方法

第一條 市ハ尋常小學校増設事業第一期即明治三十二年以降五箇年間毎年度五萬圓ヲ支出シテ區ニ於テ増設スヘキ尋常小學校建設費ヲ補給ス

第二條 建設費補給金ハ各區増設尋常小學校毎校ニ對シ其建設費決算總額三分一ノ割合ヲ以テ交付ス
前項ノ補給金ハ豫算額ニ依リ假ニ交付シ置クコトヲ得

第三條 數年度ニ繼續シテ建設ヲナス場合ニ於テハ毎年度支出額ニ對シ分割補給スヘシ

第四條 學校創設ニ必要缺クヘカラサル教授用生徒用

器具器械及教科用圖書ニ關スル備品費モ建設費中ニ包含ス

第五條 増設尋常小學校建設費ノ補給ヲ受ケントスルトキハ其請求書ニ區會ノ認定ヲ經タル決算書ヲ添付スヘシ

第二條第二項ニ依リ補給ノ假交付ヲ受ケントスルトキハ其請求書ニ區會議決ノ建設費豫算並設計書ヲ添付スヘシ

第六條 第五條第二項ニ依リ補給金ノ假交付ヲ受ケタル場合ニ於テハ更ニ區會ノ認定ヲ經タル建設費決算書ヲ提出シ若シ決算上補給金額ノ割合ニ過不足アリタルトキハ過剰金ハ直ニ返還シ不足金ハ更ニ請求スヘシ

第七條 増設尋常小學校建設費豫算ハ區會ニ附議前其

調書ヲ以テ豫メ内議スヘシ

但教授用生徒用器具器械及教科用圖書等ノ備品費

ハ其明細書ヲ添付スヘシ

第八條 分校等ノ名義ヲ以テ建設スルモノニ對シテハ

補給ヲナスノ限リニアラス

●市立小學校教員一時試用要項

明治二十九年七月十八日
市訓令 甲 第八八號

區 役 所

市立小學校ニ於テ教員ヲ一時試用セントスルトキハ左ノ要項ニ依ルヘシ

一 試用教員ハ本府尋常小學校若クハ高等小學校教員

タルノ資格ヲ有スルモノタルヘシ

但己ムヲ得サル場合ニ於テハ他府縣尋常小學校

若クハ高等小學校正教員タルノ資格ヲ有スルモ

ノヲ試用スルコトヲ得

二 試用教員ノ期限ハ六十日以内トス

三 教員ヲ試用スルトキハ其氏名履歷書給料額并試用

期限等ヲ具シ試用ノ日ヨリ三日以内ニ開申スヘシ

●幼稚園保母採用方法注意

明治三十四年四月二十四日勅使通牒
總發第五百二十四號ノ三區長宛

幼稚園保母採用ヲ要スル場合ニ於テ一時雇保母等ノ名

義ヲ以テ無資格者ヲ採用スル義ハ不相成筋ニ有之右經

伺之上此段及通牒候也

●市立小學校教員身體檢査方

明治三十三年四月十九日市長通達
總甲 第六十六號 區長宛

教育上衛生上教員健康ノ情況ヲ知悉スルノ必要アル趣

ヲ以テ其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候條別紙身體檢査事

項及心得書ニ依リ本年十月ニ於テ其區内市立小學校教

員ニ對シ當該學校ノ學校醫ヲシテ身體ヲ検査セシメ別紙記載ノ表式ニ準シ統計表ヲ作り検査後二十日以内ニ報告ノ手續可取計此段及通達候也

追テ本文身體検査統計表ハ二通宛差出サレヘシ

(別紙)

教員身體検査事項

- 一 年齢
- 二 身長
- 三 體量
- 四 胸圍 常時及充盈空虛ノ差
- 五 體格
- 六 中心視力 正視 近視 遠視
- 七 現在ノ慢性疾患

身體検査心得

一 身體検査ノ方法ハ明治三十三年文部省令第四號學生及生徒身體検査規定ニ準據スヘシ

一體格ノ强健ト稱スルモノハ筋骨脂肪ノ發育善良營養佳良ニシテ其身長(種)ヲ以テ體重(種)ヲ除シタル商〇三二以上且無病健全ノモノヲ指ス

中等ト稱スルハ發育營養共ニ通常ニシテ其身長(種)ヲ以テ體重(種)ヲ除シタル商〇二六以上且無病ノモノヲ指ス

薄弱ト稱スルハ發育營養共ニ不十分ナルカ或ハ身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商〇二六以下ナルカ或ハ強度ノ脊柱彎曲扁平胸狹小胸若クハ全身ノ健康ニ直接ノ關係アル慢性ノ疾患アル者ヲ指ス

一 慢性疾患ニ於テハ教員ノ職務ト直接ノ關係アルヘク認めラレル處ノ神経系病(例令ハ腦神經衰弱消化器病

市町村立小學校教員加俸令第三條ニ該當スルモノハ自今別紙様式ニ依リ調査ノ上加俸ヲ受クヘキ理由ヲ詳具シ内申可相成此段及通達候也

(別紙)

年功加俸ヲ受クヘキ者調査

最近七ヶ年間ニ於ケル就任并轉任年月	本府ニ於ケル勤務年月數	職名	俸給額	氏名
明治何年何月何日 同何年何月何日 同何年何月何日 同何年何月何日 同何年何月何日 同何年何月何日 同何年何月何日				

●小學校教員休退職ノ場合ニ要スル醫師診斷書記載要項
明治三十三年十月五日勅令
 甲第百八十九號ノ二區長宛

小學校令施行規則第二百二十二條第一號第二百二十六條第一號及第二號前段ノ事由ニ因リ處分セントスルトキハ恩給顧問醫ノ意見ヲ聞クコトヲ要スルコトニ相成候ニ付自今右等ノ場合ニ於テ添付スヘキ醫師診斷書ハ即チ恩給顧問醫ノ審査スヘキ要件ヲ具スル必要アルニ依リ左記要項ニ就キ可成詳密ニ記載候様御取計相成度其筋ヨリ通牒ノ趣モ有之候條此段申進候也

- 一 幼少ヨリ身體ノ強弱及著名ノ病氣等
- 一 當病ノ原因經歷現在ノ狀況診斷豫後
- 一 精神ノ衰弱ニ因ルモノノ如キハ近親ノ疾病ノ有無
- 一 父母妻子ノ存否及疾病ノ有無
- 一 其他參考トナルヘキ件

●市立小學校宿直設置
明治三十二年十二月二十七日
 市訓令甲第百四十九號
 區 役 所

市立小學校ニ宿直ヲ置キ
 御眞影ノ保護重要品及書類保管其他校舎一般ノ保全ヲ
 期セシメ非常ノ事變アリタル場合ニ於テ應急ノ處置ヲ
 ナサシムルコトハ最モ緊要ナリト認ムルニ依リ明治三
 十三年度ヨリ之ヲ實行スル様取計ハルヘシ
 但宿直ニ關スル細則ハ學校長ヲシテ之ヲ定メシメ區
 長ノ許可ヲ受ケシメラルヘシ

●外國人ニ對スル小學校生徒ノ心得方

明治三十二年五月二十二日
 市內訓乙第一號區長宛

別紙之通東京府知事ヨリ内訓有之候ニ就テハ能ク其主
 旨ノアル所ヲ服膺シ平素兒童ノ訓育ニ關シ一層深ク注
 意ヲ加ヘ内訓ニ示スカ如キ失體ナカラシメンコトヲ期
 スヘキ旨各小學校長教員ニ篤ク傳達セラルヘシ

(別紙)

東京府内訓乙第三號(三十二年五月十七日)

今ヤ條約改正ノ實施目曉ノ中ニ迫リ外人ノ雜居スル
 モノ漸ク多キヲ加フルニ至ルヘシ然ルニ從來邦人ノ
 子弟ニシテ往往外人ノ往來ノ途上冷罵惡戯ヲ試ミ又
 ハ商店ニ物ヲ購ヘルニ之ヲ環視シ其煩累ニ堪ヘサラ
 シムルモノナシトセス内地雜居ノ日猶是ノ如キ惡習
 ヲ脱セサルニ於テハ我國ノ體面ヲ毀損シ外人接遇上
 甚タ遺憾トスル所ナリ就テハ各小學校長教員ニ於テ
 特ニ意ヲ茲ニ用ヒ平素生徒ニ深ク訓戒ヲ加ヘシメ又
 一方ニハ學校ニ於テ生徒ノ父兄ヲ集ムル等ノ場合ニ
 ハ校長教員ヨリ懇諭切示シ家庭教育ト相待チ子弟ヲ
 シテ右等外人ニ對スル不都合ノ舉措ナカラシメ候様
 厚ク注意ヲ加ヘシメラルヘシ

●學校生徒教養主旨格守方注意

明治三十二年七月十四日
市訓令 第九十四號

區 役 所

明治三十二年文部省訓令第十號ニ基キ學校生徒教養方ニ關シ東京府訓令ノ趣モ有之候ニ就テハ學校長教員ニ於テ該主旨ヲ恪守シ生徒訓育上一層深ク注意ヲ加ヘ教育ノ方針ヲ誤ラサル様勵精スヘキ旨各學校ニ相達スヘシ

● 小學校生徒五日間昇校禁止方

明治三十二年九月十六日
市訓令 第三十四號

區 役 所

學校傳染病豫防及消毒方法ハ明治三十一年九月文部省令第二十號ニ規定セリト雖モ赤痢及虎列刺病ノ如キハ一層嚴密ノ注意ヲ要スヘキモノナルニ依リ小學校生徒ノ家ニ於テ該病患者アリタルトキハ特ニ五日間生徒ノ

昇校ヲ禁スル様取計フヘシ

● 小學校生徒喫烟並烟器夾帶禁止實行方注意

明治三十三年三月十九日
市訓令 甲第十三號

區 役 所

小學校生徒喫烟并煙器夾帶ノ義ハ明治二十七年文部省令第六號ヲ以テ禁止セラレ候處尙今般法律第三十三號ヲ以テ未丁年者喫烟禁止法發布相成來ル四月一日ヨリ實施セララルヘキニ就テハ小學校生徒ニシテ右ノ禁制ニ抵觸スルカ如キコトアルニ於テハ甚タ不都合ニ付學校ニ於テモ自今一層注意ヲ茲ニ用ヒ平素生徒ニ訓戒ヲ怠ラサルト共ニ又一方ニ於テハ生徒ノ父兄若クハ保護者ニ注意ヲ加ヘ家庭教育ト相待ツテ此法令ノ精神ヲ貫徹セシムル様厚ク留意スヘキ旨各小學校ニ通達セララルヘシ

● 小學校生徒身體檢查上注意方

明治三十三年六月八日勅使通牒
總甲 第百一十一號 區長宛

學校生徒身體検査表ハ本年文部省令第四號第七條ニ依
リ地方長官ヨリ文部大臣ニ報告スヘキ規定ナルモ往往
當該學校長ヨリ直接報告ヲナス向アル趣ヲ以テ其筋ヨ
リ通牒ノ次第モ有之就テハ規定ニ從ヒ報告方可取計旨
爲念夫夫注意相成度及通牒候也

追テ本文検査表中左記ノ事項ニ關シ文部省ニ於テ照
會往復ヲ重テ彼是手數ヲ要スル向モ有之趣ニ就テハ
是亦爲念注意セシメラレ度申添候也

一 身長胸圍體重ハ第五條第二號ニ依リ一位以下小數位
一位ヲ作り記入スヘキ筭ナルニ或ハ一位ニ止メ小數
位ヲ記入セス或ハ小數二位以上ヲ作り記入シタルモ
ノアルコト

一 視力ハ兩眼正視ノモノヲ其欄ニ記入シ其他ノモノハ

左右眼當該欄ニ記入スヘキ筭ナルニ該兩眼正視ノモ
ノヲ其欄ニ記入シ更ニ左右眼ノ欄ニモ記入シタルモ
ノアルコト
一 平均數ノ最大數ヨリ大ナルモノ又ハ最小數ヨリ小ナ
ルモノアルコト
一 現行様式ニ依ラス明治三十年訓令第三號ノ舊様式ニ
依リ調製シタルモノアルコト

● 學生生徒身體検査方法並標準

明治三十四年四月十日勅使通牒
總甲 第百六十六號ノ二區長宛

明治三十三年文部省令第四號學生生徒身體検査規程第
五條第六號及第七號ノ事項ハ別記ノ方法並標準ニ依リ
検査スヘキ旨其筋ヨリ通牒有之候條各小學校へ通達相
成度此段申進候也

(別記)

一 脊柱ニ於ケル左右ノ彎曲ハ背面ヨリ屈曲ハ側面ヨリ
 検査スヘシ
 左彎右彎及後屈ノ名稱ハ胃椎部位凸側ノ方向ニヨリ
 テ定ムヘシ
 一體格ニ於ケル強健中等薄弱ハ概テ左ノ標準ニ依ルヘ
 シ
 強健ハ發育營養共ニ佳良ニシテ強壯ナル者
 中等ハ少クモ發育營養中等ニシテ持久性ノ疾患ナキ
 者
 薄弱ハ前二項ニ該當セサル者
 學生生徒身體ノ中等發育ハ別表ノ如シ

育表	
女	
身長	胸圍
107.0	53.0
112.0	54.0
116.0	56.1
120.0	58.0
126.0	60.2
132.0	62.5
139.0	65.0
143.0	67.7
145.0	71.9
148.0	73.1
147.0	74.7
148.0	76.5
149.0	79.8
148.0	80.1
149.0	80.1
149.0	80.6
149.0	81.0
148.0	78.4
146.0	78.1
—	—
—	—

● 學齡未滿兒入學禁止取締方
 明治三十二年十月三十一日
 市訓令甲第四十二號

區 役 所

學齡未滿兒ヲ小學校ニ就學セシムルハ兒童身神ノ發育
 上其害甚カラサルノミナラス學校管理上ニ於テ不都合
 ナルニ依リ之ヲ嚴禁スヘキ旨豫テ夫夫令達セララル處
 アリト雖モ往之ヲ就學セシムルモノナキヲ保セサル

學生生徒中等發				
年 齡	男			
	體 重	身 長	胸 圍	體 重
6-7	17.8	108.0	54.1	17.2
7-8	19.1	114.0	55.5	18.7
8-9	21.0	118.0	57.2	20.5
9-10	23.0	123.0	59.2	22.3
10-11	25.0	127.0	61.4	24.4
11-12	27.2	131.0	63.1	27.8
12-13	29.8	135.0	64.9	31.4
13-14	33.6	142.0	66.9	36.5
14-15	38.7	146.0	69.1	38.2
15-16	43.7	154.0	75.6	41.3
16-17	47.9	156.0	77.5	43.6
17-18	50.8	159.0	78.6	45.4
18-19	52.0	160.0	79.2	46.4
19-20	53.0	159.0	80.0	47.7
20-21	54.4	161.0	80.4	48.1
21-22	53.6	161.0	82.7	47.5
22-23	53.1	160.0	83.7	47.6
23-24	52.9	161.0	80.7	47.8
24-25	52.3	161.0	80.2	47.2
25-30	52.2	161.0	80.2	—
30-35	51.5	161.0	80.3	—

ス

一 二學年ノ高等小學校ニ在リテハ本表高等科第二學年
 マテヲ課シ三學年ノ高等小學校ニ在リテハ本表高等
 科第三學年マテヲ課スヘシ
 一 戶外運動又ハ水泳ヲ授クルトキハ本表時間ノ内外ニ
 於テ之ヲ課スヘシ

● 小學校令施行規則百八十二條但書ニ照シテ包含
 セサル件明治三十三年八月三十一日市長通達
 總發第千四百六十五號 區長宛

本年ハ文部省令第十四號小學校令施行規則第百八十二
 條但書ノ東京市トアルハ區ヲ包含セサル義ト心得ラル
 ヘク經伺ノ上右通達候也

● 小學校正教科目ノ外必修科及隨意科目
明治三十四年四月一日
 市告示第千二百五號

本市立小學校正教科目ノ外必修科及隨意科トシテ加フ

一 キ教科目左之通定ム

一 尋常小學校必修科

圖畫唱歌裁縫(女兒)

一 高等小學校隨意科

英語

● 學事統計ニ關シ調査上注意方

明治三十二年十二月六日市長通達
 總發第千四百十八號 區長宛

學事統計ハ諸般ノ學事施設上唯一ノ參考トナルヘキモ
 ノナルニ依リ慎重ノ調査ヲ要スヘキハ勿論ノ義ニ有之
 就中學齡兒童ニ關スル統計ノ如キハ初等教育設備上ノ
 要素タルノミナラス本年法律第百七號ヲ以テ學齡兒童
 數及就學兒童數ニ比例シテ國庫ヨリ補助金ヲ交付スル
 コトニ定メラレタルニ由リ自今一層其調査方法ニ注意
 フ加ヘ慎重精覈以テ正確ノ統計ヲ得ンコトヲ期セラル

ヘク此段及通達候也

● 小學校一定休業日 明治三十四年三月六日
市訓令甲第十三號

區 役 所

明治三十三年十一月 東京府令第八十六號小學校令及小學校令施行規則實施ニ關スル規程第二十三條ニ依リ左記ノ日ヲ以テ毎年一定ノ休業日ト定メ候條其旨各小學校ヘ通達スヘシ

一 五月二十八日 皇后陛下御誕辰

一 靖國神社祭日

一 鎮守神社祭日

一 學校紀念日

● 代用其他私立小學校監視並實況取調具申方

明治二十八年十二月十三日
市訓令第百二十七號

區 役 所

代用私立小學校及其他ノ私立小學校ニシテ左ノ事項ニ該當スト認ムルトキハ示諭スヘシ示諭ノ末尙ホ改メサルニ於テハ明治二十五年東京府令第二十四號私立小學校等設置廢止ニ關スル規則第十條及明治二十四年文部省令第一號私立小學校代用規則第十一條ニ依リ處分手續ヲナスヘキニ付其實況詳細具申スヘシ

一 適當ノ教員ヲ配置セス又ハ缺員ノ場合ニ於テ其補充ヲナササルモノ

一 修身科其他ノ教科ニ教科用規定外ノ圖書ヲ用ヒテ教育ノ要旨ヲ誤ルノ恐レアリト認ムルモノ

一 尋常小學校ニシテ設置以外ニ高等小學校ノ教科ヲ課シ又ハ補充科ヲ課スルモノ

一 校舍ノ構造及管理上有害ト認ムルモノ即チ採光通氣ノ不適當ナルモノ又ハ不潔ニシテ衛生ニ害アリト認

ムルモノ

前項ニ掲クル外法律命令ニ背キ又ハ教育上弊害アリト認ムルモノアルトキハ其實況詳細具申スヘシ

●私立小學校教員認可標準

明治三十二年十一月十三日勅令
總甲第百六十二號ノ三區長宛

私立學校令第五條ニ於ケル私立小學校教員ノ認可ニ關スル標準別紙ノ通内定候旨東京府知事ヨリ通牒有之候ニ就テハ御取扱上參考ノ爲及御回付候也

(別紙)

小學校雇教員認可ノ標準内規

- 第一高等本科正教員ノ職務ニ従事スルコトヲ得ヘキ者
- 一 他府縣ノ高等本科正教員免許狀ヲ有スル者
- 二 中學校ヲ卒業シタル者

三 高等女學校ヲ卒業シタル者

四 嘗テ高等本科正教員ノ資格アリシ者

五 學業及職務ノ經歷等高等本科正教員ノ職務ニ

堪ユヘシト認め得ヘキ者

第二尋常本科正教員ノ職務ニ従事スルコトヲ得ヘキ者

一 他府縣ノ尋常本科正教員ノ免許狀ヲ有スル者

二 嘗テ尋常本科正教員ノ資格アリシ者

三 尋常本科正教員ノ免許狀ヲ有シ尋常本科正教

員ヲ養成スルノ目的ヲ以テ開設シタル師範學

校講修科ヲ修了シタル者

四 學業及職務ノ經歷等尋常本科正教員ノ職務ニ

堪ユヘシト認め得ヘキ者

第三高等本科准教員ノ職務ニ従事スルコトヲ得ヘキ

- 者
- 一 他府縣ノ高等本科准教員免許狀ヲ有スル者
 - 二 嘗テ高等本科准教員ノ資格アリシ者
 - 三 學業及職務ノ經歷等高等本科准教員ノ職務ニ堪ユヘシト認めヘキ者
- 第四尋常本科准教員ノ職務ニ從事スルコトヲ得ヘキ者
- 一 他府縣ノ尋常本科准教員免許狀ヲ有スル者
 - 二 中學校三學年以上ノ科程ヲ修了シタル者
 - 三 高等女學校三學年以上ノ科程ヲ修了シタル者
 - (三十二年勅令第三十一號高等女學校令發布前ノ高等女學校ニシテ高等女學校三學年修了ノモノヲ入學セシメタルモノニ在テハ二學年以上ノ課程ヲ修了シタルモノニ在テハ二學年以上)
 - 四 高等小學校(修業年限)卒業ノ上小學校教員ノ講修ヲ修了シタル者

- 五 嘗テ尋常本科准教員ノ資格アリシ者
 - 六 學業及職務ノ經歷等尋常本科准教員ノ職務ニ堪ユヘシト認めヘキ者
- 第五專科(圖畫音樂體操裁縫家事)正教員ノ職務ニ從事スルコトヲ得ヘキ者
- 一 他府縣ノ專科(圖畫音樂體操裁縫家事)正教員免許狀ヲ有スル者
 - 二 嘗テ專科(圖畫音樂體操裁縫家事)正教員ノ資格アリシ者
 - 三 專科(圖畫音樂體操裁縫家事)正教員タルヘキ學科ヲ教授スル學校又ハ講習會等ノ卒業若クハ修了シタル者
 - 四 學業及職務ノ經歷等專科(圖畫音樂體操裁縫家事)正教員ノ職務ニ堪ユヘシト認めヘキ者

第六專科(圖工農音樂體操)准教員ノ職務ニ從事

スルコトヲ得ヘキ者

一 他府縣專科(圖工農音樂體操)准教員免許狀ヲ有スル者

二 管テ專科(圖工農音樂體操)准教員ノ資格アリシ者

三 專科(圖工農音樂體操)准教員タルヘキ學科ヲ教授スル學校又ハ講習會等ヲ卒業若クハ

修了シタル者

四 學業及職務ノ經歷等專科(圖工農音樂體操)准教員ノ職務ニ堪ユヘシト認め得ヘキ者

● 小學校代用教員採用ニ關スル規程

明治三十四年三月三十日
市訓令甲第十七號

區 役 所

小學校代用教員採用ニ關スル規程左ノ通り定ム尙本文ノ趣心得ノ爲メ市立小學校及代用小學校へ通達スヘシ
代用教員ニ關スル規程

第一條 代用教員ハ年齡滿十五年以上ニシテ修業年限四ヶ年ノ高等小學校ヲ卒業シタルモノ若クハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノニシテ准教員ノ職務ヲ行フニ堪ユルト認ムル者ヨリ之ヲ採用ス

第二條 代用教員ノ勤務年限ハ一學年以内トス

但之ヲ更新スルコトヲ得

第三條 代用教員ニシテ退職セントスルトキハ其旨市長ニ出願スヘシ

第四條 代用教員ノ月俸額ハ左ノ標準ニ依ル

代用教員	一級	二級	三級	四級	五級	六級
	上 二十圓	十六圓	十三圓	十一圓	九圓	七圓
	下 十八圓	十四圓	十二圓	十圓	八圓	六圓

第五條 代用私立小學校ニ於テ代用教員採用ノ承認ヲ

受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具スヘシ

一 履歷

但住所、氏名、生年月及學業業務資格賞罰等ニ關スル

事項ヲ明記スルコトヲ要ス

二 勤務ノ種別

三月俸額

四 勤務ノ年限

● 小學校代用教員採用方注意

明治三十四年三月三十日勅令
總發第四百六十二號 區長宛

代用教員ニ關スル規程本日訓令第一七號ヲ以テ定メラ

レ候處右ハ相當資格ヲ有スルモノヲ得難キ場合ノ外可

成之ヲ採用セサル方針ニ有之命ニ依リ此段及通牒候也

追テ代用教員採用解職等ニ關シテハ教員任免等ノ例

ニ依リ内申ノ手續取計ハレ度申添候也

● 小學校代用教員ノ實際勤務指令方

明治三十四年四月一日勅令
總發第四百六十二號 區長宛

市立小學校代用教員ノ實際勤務ニ關シテハ學校長ニ於

テ指令候様其旨各學校長へ通達相成度此段申進候也

● 小學校代用教員任免辭令様式

明治三十四年四月二日
市 長 決 列

客月三十日付ヲ以テ代用教員ニ關スル規程別紙之通訓

令相成候ニ以テハ左記様式ノ辭令ニ依リ該教員ノ任免

ヲ爲スモノトス(別紙省略)

辭令様式(用紙奉書)

(採用辭令)

氏 名

東京市何何尋常小學校代用教員ヲ命シ何級上俸給

與	年月日	所	名
	(解職辭令)		
	東京市何何高等(尋常)小學校代用教員	氏	名
	(依願代用教員ヲ免ス)		
	年月日	所	名
	(增俸辭令)		
	東京市何何高等(尋常)小學校代用教員	氏	名
	何級上俸給與		
	年月日	所	名

第二類 衛生

● 傳染病豫防ニ關スル事項區長ニ委任

明治三十年五月四日
市訓令甲第八號

區 役 所

本年三月法律第三十六號傳染病豫防法ニ依リ來五月一日以降區内傳染病豫防ニ關スル事項ハ其區ニ於テ施行スヘシ

但豫防法施行手續ハ追テ訓令候迄ハ所轄警察署長ト協議シ便宜取計フヘシ

● 獸疫豫防ニ關スル事項區長ニ委任

明治三十二年五月二十七日
市告示第三十七號

明治二十九年三月法律第六十號獸疫豫防法中市長ニ屬スル事務區長ニ委任シ掌理セシム

●街頭便所ニ關スル事項區長ニ委任

明治三十四年四月二十八日
市告示第四十七號

明治三十三年三月法律第三十一號汚物掃除法中左ノ事項ヲ委任シ區長ヲシテ掌理セシム

一街頭便所ニ關スル事項

●塵芥掃除ニ關スル事項區長ニ委任

明治三十四年四月五日
市告示第三十號

明治三十三年三月法律第三十一號汚物掃除法中左ノ事務區長ニ委任シ掌理セシム

一塵芥掃除ニ關スル事項

但掃除監視吏員ニ關スル事項ハ此限リニアラス

●下水浚渫ニ關スル事項區長ニ委任

明治三十四年三月二十九日
市告示第二十九號

明治三十三年三月法律第三十一號汚物掃除法中左ノ事

項ヲ委任シ區長ヲシテ掌理セシム

一下水浚渫ニ關スル事項

●鳥獸死屍取片付ニ關スル事項區長ニ委任

明治三十四年四月十七日
市訓令甲第二十八號

區 役 所

鳥獸死屍取片付ノ義明治三十四年五月一日以降區長ニ於テ掌理スヘシ

●駒込病院設置明治三十年五月一日
市告示第十九號

本郷區駒込助坂町ニ市立駒込病院ヲ設置シ市内傳染病患者ヲ收容ス

●消毒所設置明治三十年五月一日
市告示第二十號

深川區大工町ニ市立消毒所ヲ設置シ傳染病毒ニ汚染シタル物件ノ消毒ヲ施行ス

但特ニ消毒施行ヲ望ム者ハ物品携帶同所へ申出既定

ノ消毒料ヲ納付スヘシ

●市衛生常設委員ノ組織及職務權限

明治三十年二月十七日
市告示第五號

本市會ノ議決ヲ經東京市衛生常設委員ノ組織及職務權限左ノ通定ム

第一條 東京市衛生常設委員ヲ置キ左ノ人員ヲ以テ組織ス

市參事會員

一名

市會議員

二名

市公民中選舉權ヲ有スル者

二名

第二條 委員ハ傳染病ノ豫防救治及清潔法實施ニ關スル事務其他公衆衛生上ノ事務ヲ掌理ス(三十二年七月
市告示第五十八號ヲ以テ本條改正)

第三條 委員ノ任期ハ二箇年トス

但再選セララルコトヲ得

●市醫職務章程 明治三十三年四月二十三日

區 役 所

市 醫 所

明治二十九年十月東京市訓令第二號東京市市醫職務章程
左ノ通改正ス

東京市市醫職務章程

第一條 市醫ハ市内ノ醫事及公衆衛生ニ關スル事項ヲ掌ル

第二條 市醫ハ一區ニ二名ヲ置ク

但擔當區内ニ居住スルモノヲ要ス

第三條 市醫ノ擔任スル事項左ノ如シ

一 傳染病地方病ノ發生ニ注意シ之カ豫防救治ヲ計ル
コト

- 但發生ノ狀況ニ依リ市參事會ニ報告スルコト
- 一 傳染病患者隱蔽ノ有無ニ注意シ發見ノ際ハ直ニ區長ニ申報スルコト
 - 一 傳染病ノ疑アルモノニ對シ診斷又ハ檢按ヲ行フコト
 - 一 傳染病患者發生ニ際シ健康診斷ノ必要アルトキハ之ヲ行フコト
 - 一 種痘ノ普及ヲ計リ無資力者ノ種痘ヲ施行スルコト
 - 一 飲食物ノ除害ヲ計ルコト
 - 一 主治醫又ハ產婆ノ手ヲ經サル無資力者ノ死産兒及死體ヲ檢按スルコト
 - 一 恤救規則該當者ノ診斷及徵兵ニ關スル無資力者ヲ診斷スルコト
 - 一 前條各項ノ外市内ノ醫事及公衆衛生上ニ關シ意見

- アルトキハ市參事會ニ申報スルコト
- 第四條 前條第一項第二項第六項及第九項ヲ除クノ外ハ區長ノ要求アルトキハ之ヲ處理スルコト
 - 第五條 第三條ニ掲クル事項ニ就テハ其擔當區域ニ拘ラス互ニ援助處辨スルコト
 - 第六條 毎日交代一名ツツ所轄區役所ニ出頭シ醫事及公衆衛生上ニ關シ協議ヲナスコト
 - 第七條 毎月執行シタル事項ハ別紙表式ニ依リ翌月十日限リ所轄區役所ヲ經テ市參事會ヘ報告スルコト
 - 第八條 市醫中幹事長一名幹事三名ヲ置クコト
但本條ハ投票ヲ以テ互撰シ其任期ハ滿一ケ年トシ毎年四月之ヲ改撰ス
 - 第九條 市醫ハ必要ニ應シ市醫會ヲ開ク會長ニハ幹事長ヲ以テ之ニ充テ議事ヲ整理シ幹事ハ庶務ヲ處辨ス

ルコト

但議事ハ普通會議法ニ依ル

第十條 市醫ニ於テ七日以上旅行セントスルトキハ其事由ヲ記シ區役所ヲ經テ市參事會ノ認可ヲ受ケ七日未滿ハ前手續ニ依リ當廳ヘ届出ヘキコト(三十二年二月三十一日市訓令甲第八號ヲ以テ追加)

(別紙)

明治何年何月分市醫職務執行表

件名	件數
一傳染病豫防上ニ付區役所警察署ヘ出頭シタル數	
一傳染病又ハ地方病ノ發生アルトキハ其狀況ヲ市參事會ヘ報告數	
一傳染病患者ノ疑ハシキモノニ對シ診斷又ハ檢按ヲ行フタル數	

一健康診斷ヲ行ヒタル度數	
一同上人員	
一傳染病隱蔽患者ヲ發見シタルトキ區長ニ申報シタル數	
一傳染病豫防上ニ付演說談話等ヲナシタル數	
一無資力者施種痘數	
一飲食物ノ除害ニ關シ區長ヘ報告シタル數	
一無資力者ノ死産兒及死體ヲ檢按シタル數	
一恤救規則該當者ノ診斷及徵兵ニ關スル貧民診斷數	
一以上ノ他市内ノ醫事衛生上ニ關シ意見アルトキハ區長ニ協議シ又ハ市參事會ヘ申報シタル數	
合計	

(備考)

執行シタル事項中本文各項以外ノモノアレハ茲ニ其
事項ヲ列記スヘシ

右報告候也

何區擔當市醫

年月日

何

某印

東京市參事會

市長宛

●駒込病院非常心得明治三十四年二月二十二日
市訓令甲第百二十二號

駒込病院

其院非常心得書左ノ通相定ム

駒込病院非常心得

第一條 駒込病院ニ於テ火災震災等非常ノ災害ヲ生シ
若クハ生セントスルトキハ左ノ各條ヲ遵守シ其他臨
機ノ處置ヲナスヘシ

第二條 非常警報用トシテ院内數ヶ所ニ盤木ヲ備付置
豫テ之ヲ熟知セシムヘシ

第三條 非常アリト認ムルコトアルトキハ之ヲ發見シ
タル者何人ヲ問ハス院内警報器ヲ使用スヘシ

第四條 院内警報ヲ聞クトキハ職員ハ勿論其他ノ者ト
雖モ直ニ現場ニ駆付向ホ洽ク院内へ警戒ヲ興フヘシ

第五條 非常ノ際ハ職員以下事ニ當テ不都合ナカラシ
メン爲メ醫員調藥員看護婦汚物取扱人等ハ患者ノ救
護ニ事務員門番小使賚方人夫駈付人夫等ハ防火其他
ノ防禦警戒ニ從事セシムル等豫メ其擔任ヲ定置クヘ
シ

第六條 非常ノ際ハ職員以下ノ分擔ヲ定置ト雖モ第一
次ニ患者ノ救護ヲナシ第二次ニ緊要書類及印章ノ持
返其他必要ノ件件ニ從事スヘシ

但患者立退ノ場合ニ於テ擔任者ノミニテ手廻リ兼
ルトキハ自己擔任ノ何タルヲ問ハス共ニ之ニ從事
補助スヘシ

第七條 非常ノ際使用スル患者運搬用擔架防火用ポン
プ其他ノ必要品ハ院内一定ノ場所ニ配置シ豫メ之ヲ
熟知セシムヘシ

第八條 非常ノ際患者ヲ院内ニ留置難キ場合ハ病院附
近ノ寺院其他等ニ就キ休息セシムル等豫メ之レカ立
退場ヲ用意シ置クヲ要ス

第九條 事ニ當テ差支ナカラシメン爲メ職員以下雇人
ヲシテ第七條ノ器具ヲ使用シ隔月ニ一回ツツ練習ヲ
爲サシムヘシ

但練習ノ際ハ前以テ當處ヘ通知スヘシ

第十條 職員以下退出後ニ於テ病院附近ニ出火其他災

害アリト認メタルトキハ直ニ駐村宿直員ニ申出ヘシ

●傳染病院番衛服務心得明治三十四年二月二十二日
市訓令甲第九二號

本所病院
廣尾病院
大久保病院

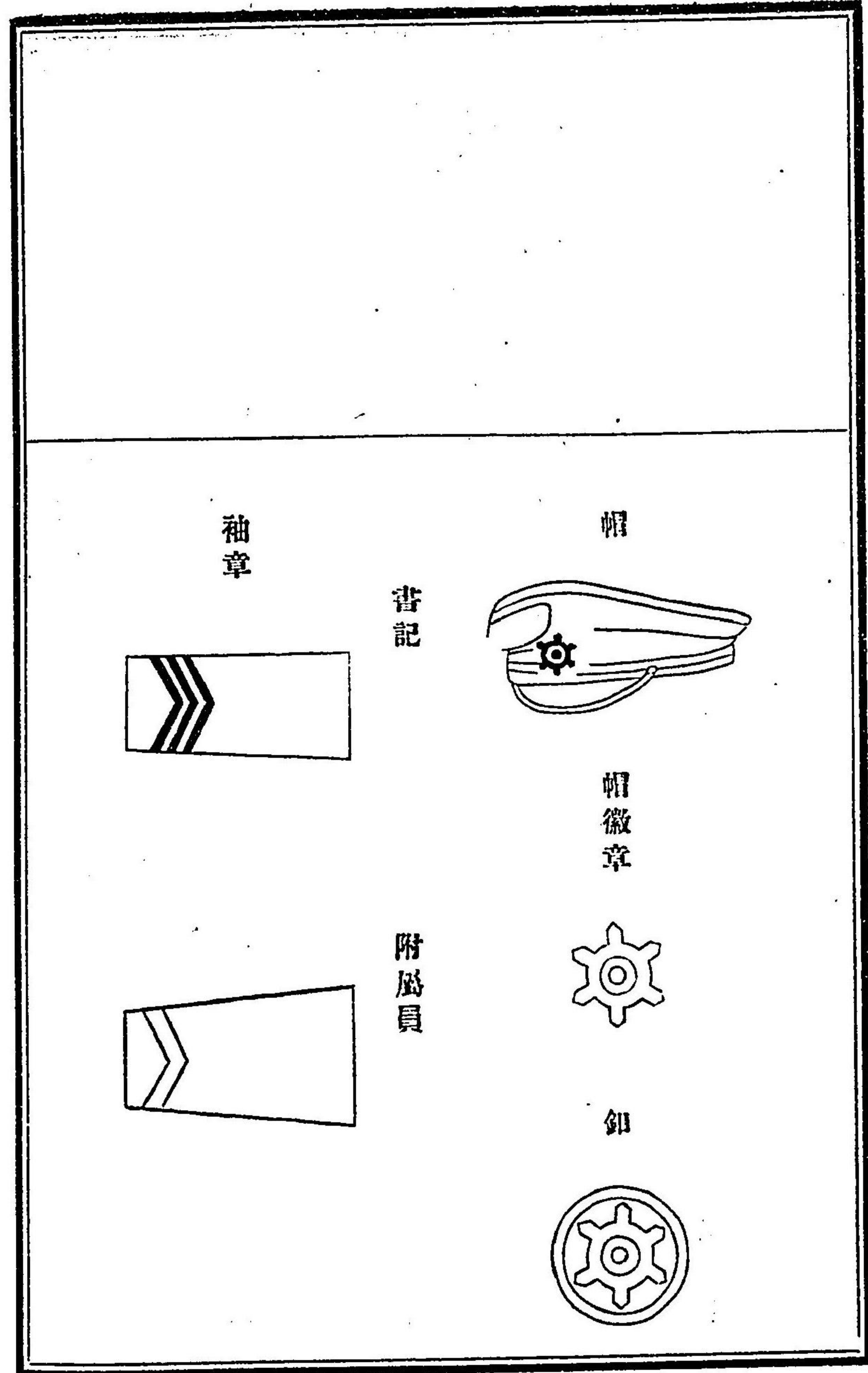
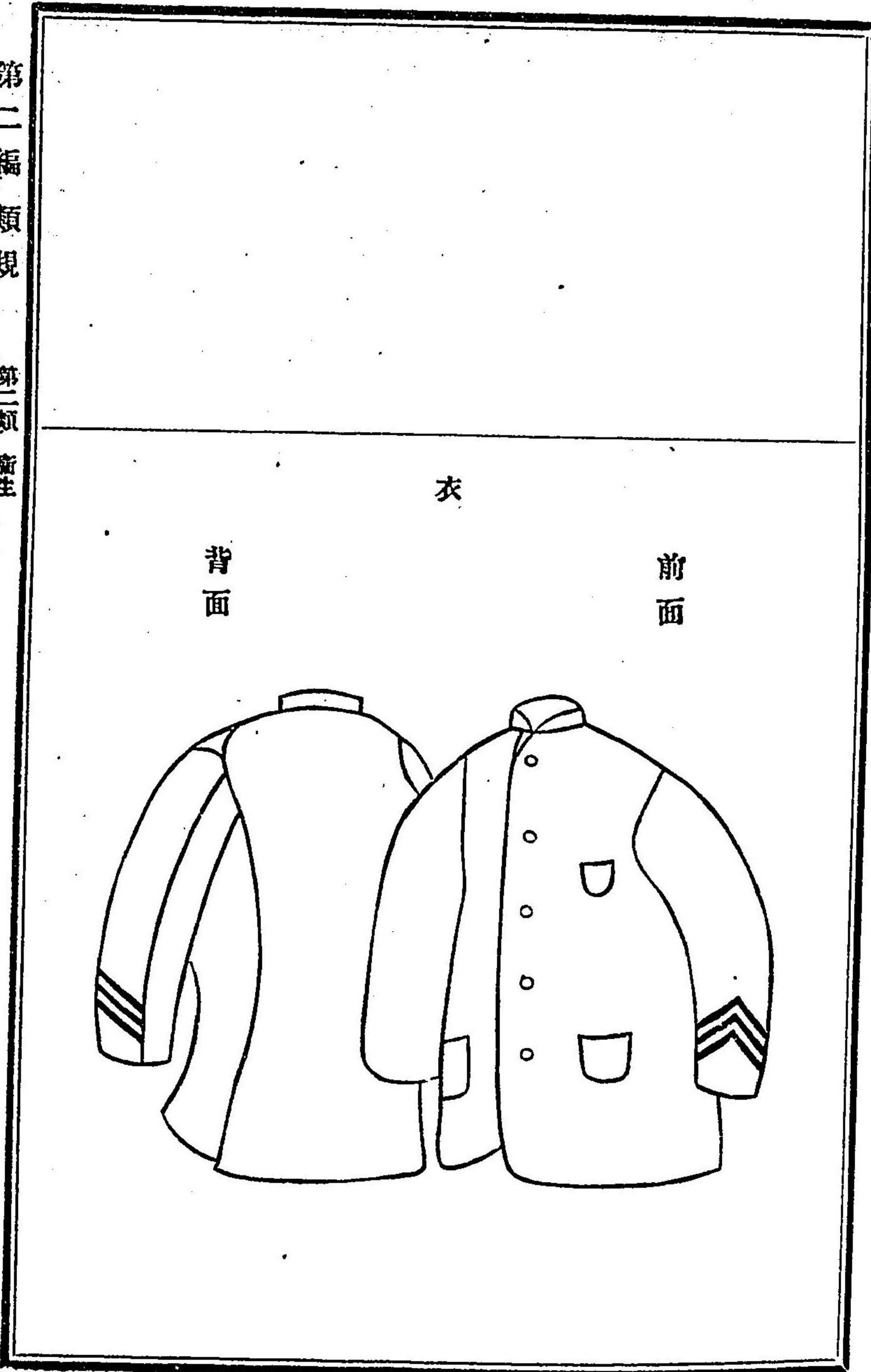
其院番衛服務心得左ノ通相定ム

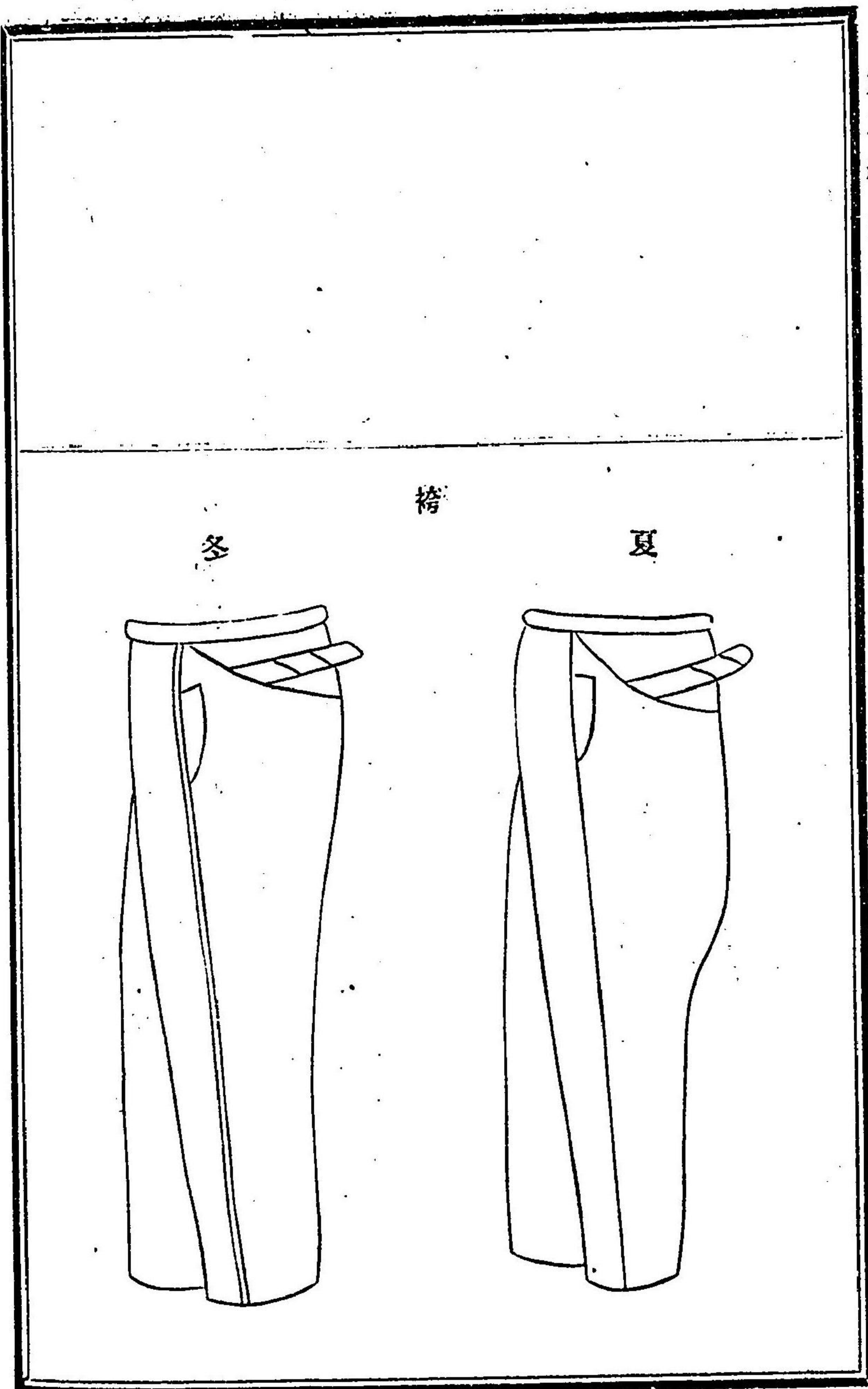
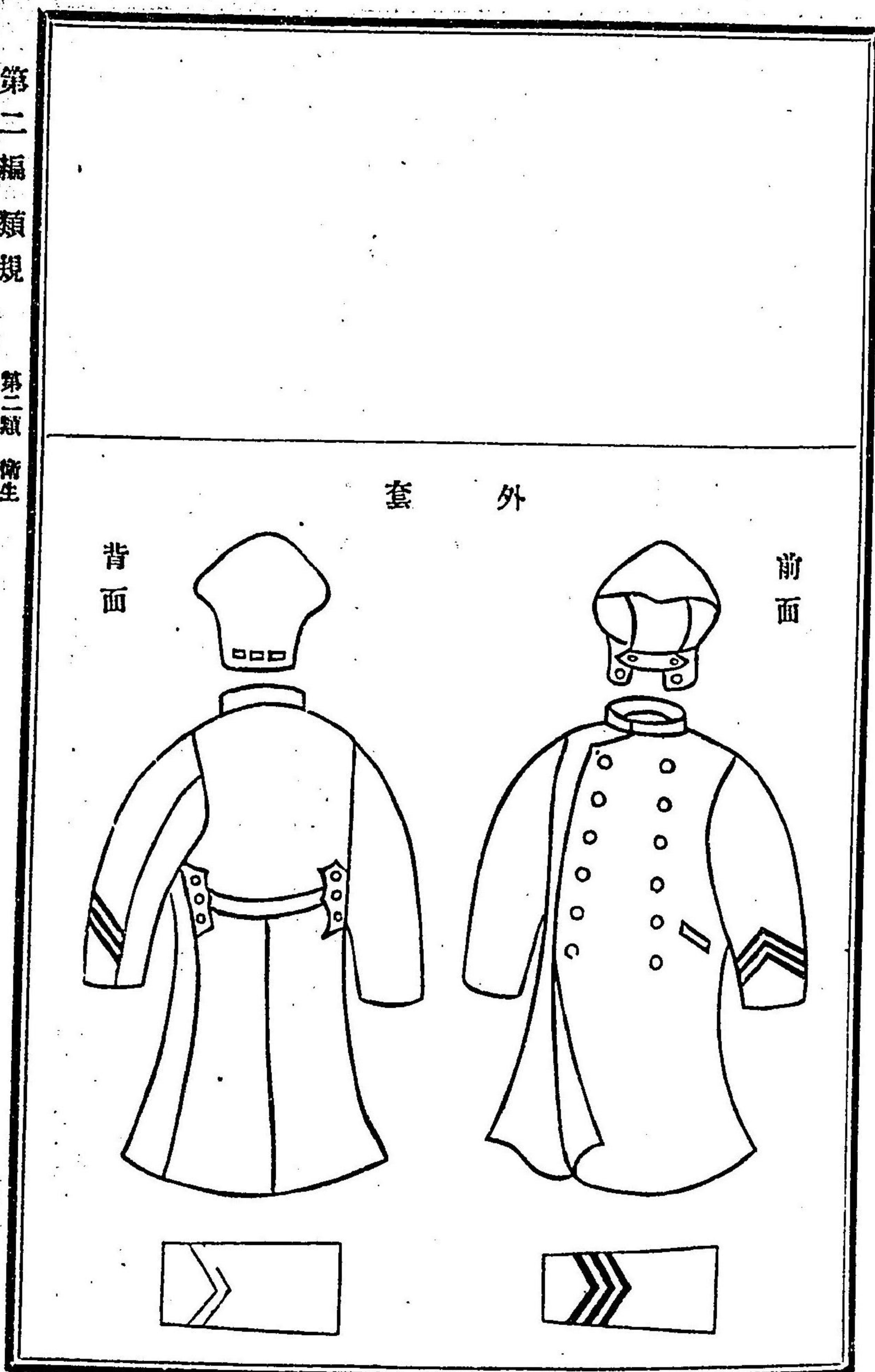
傳染病院番衛服務心得

第一項 番衛ハ東京市役所總務部衛生課ノ指揮監督ヲ
受ケ院内番衛所ニ居住シ建造物並附屬器具樹木等ヲ
監守スヘシ

第二項 常ニ病院内外ノ清潔法ニ注意シ時時洒掃スヘ
シ

第三項 要用アル者ノ外ハ妄リニ院内ニ入ラシム可ラ
ス





●區衛生掛員被服給與規則明治三十一年七月五日市訓令甲第六號
區 役 所

其區衛生掛員被服給與規則左之通之ヲ定ム

被服給與規則

第一條 被服ハ現品靴ハ料金を以テ給與ス其品目及使用期限金額等左ノ如シ

品 目	個 數	使用期限	使用期節
夏 服	二 組	四 ケ 月	六月一日ヨリ九月三十日マデ
冬 服	一 組	八 ケ 月	十月一日ヨリ翌年五月三十一日マデ
外 套	一 組	二十四ケ月	
帽 子	一 個	十二ケ月	
靴 料	一ケ年金六圓		

第二條 給與品ハ新任ノ際又ハ使用滿期ノ翌月之ヲ給

ス其期限内ニ於テ轉免シタルモノハ現品ヲ返納セシム

第三條 月數ノ計算ハ曆ニ從フト雖モ其終始ノ端日數ハ之ヲ通算シテ三十日以内ハ一ケ月トシ三十日以外ハ二ケ月トス

第四條 靴料ハ毎年度ノ始ニ於テ之ヲ支給ス

但新任若クハ轉免ノ者ニハ其月數ニ應シ支給シ又ハ返納セシムヘシ

第五條 帽前章及制服釦ハ使用ノ終ルヲ期トシ返納セシム

第六條 第二條ノ返納品ハ前任者ノ使用殘期ヲ逐ヒ常應衛生部ニ於テ其期限ヲ査定シテ之ヲ新任者又ハ遺失汚損ノ爲メ引換ヲ要スルモノニ支給スヘシ

第七條 給與品ハ正當事故ノ爲メ遺失汚損シタルモノ

ハ更ニ現品ヲ給與シ前給與品ニ對シテハ原價ニ基キ
 使用殘期ニ屬スル金額ヲ賠償セシム
 第八條 返納品ハ使用滿期又ハ轉免ノ當日ヨリ十日以
 内ニ當廳衛生部へ返納セシムヘシ

● 區衛生掛提灯徽章準據方

明治三十三年六月二十六日市役所通牒
 內發第百二十一號ノ二區役所宛

本月二十三日市告示第六十八號ヲ以テ提灯徽章改定セ
 ラレ候ニ付區衛生掛提灯ノ儀ハ自今一般區書記提灯ニ
 準據スヘキ儀ト御承知相成度爲念申進候也

● 傳染病豫防消毒人夫被服圖例

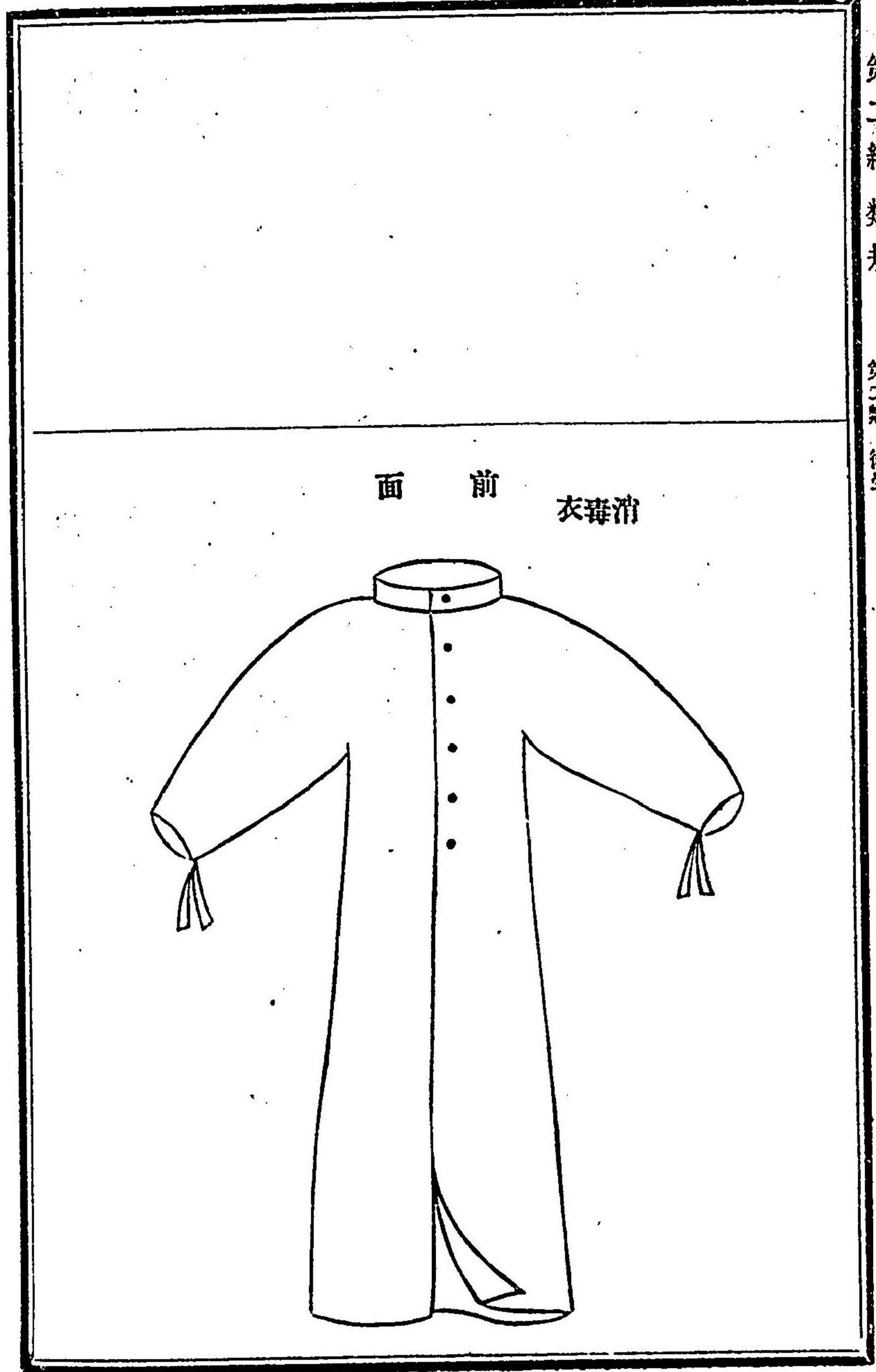
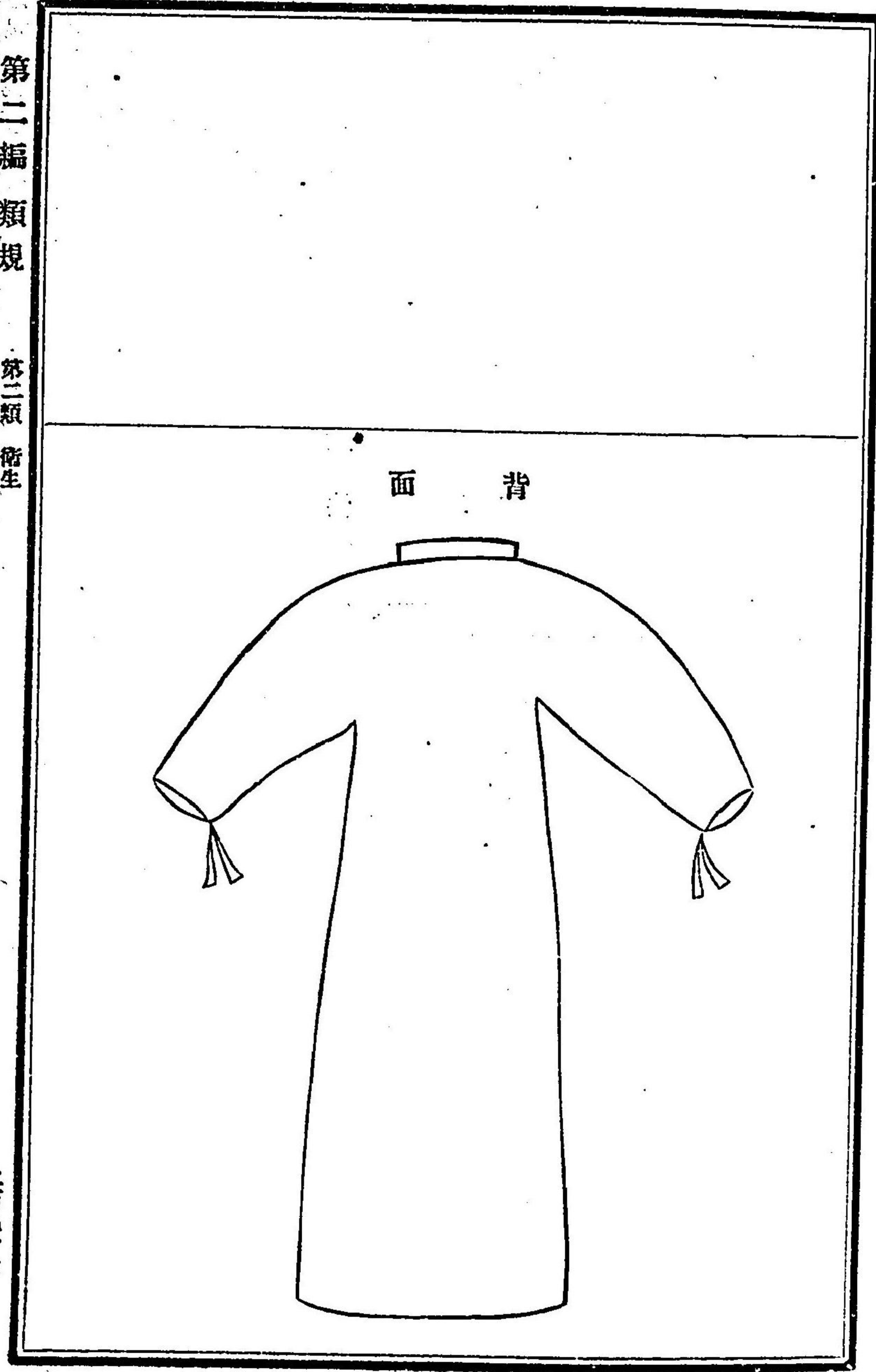
明治三十二年七月七日助役通牒
 總乙第七百八十八號區長宛

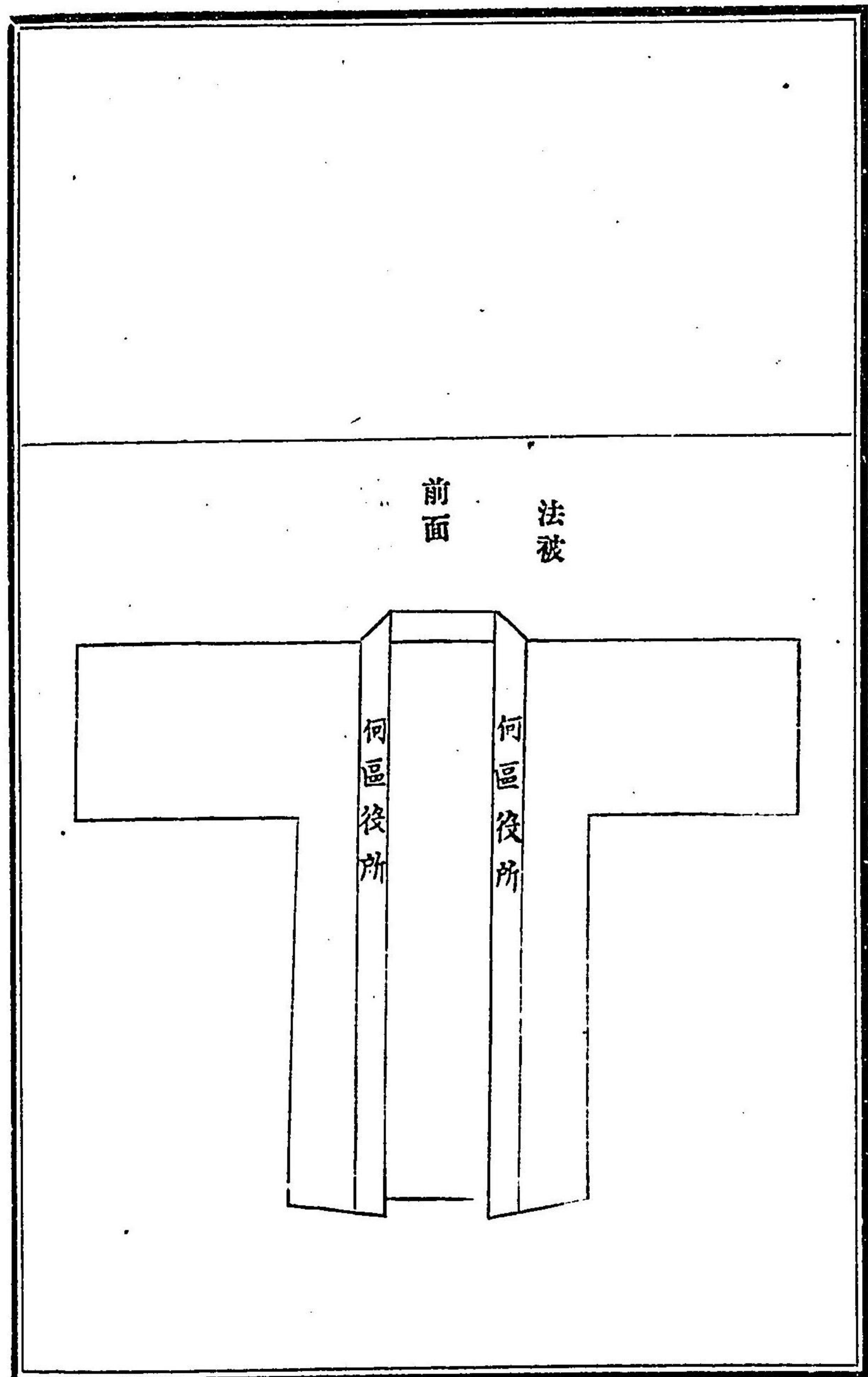
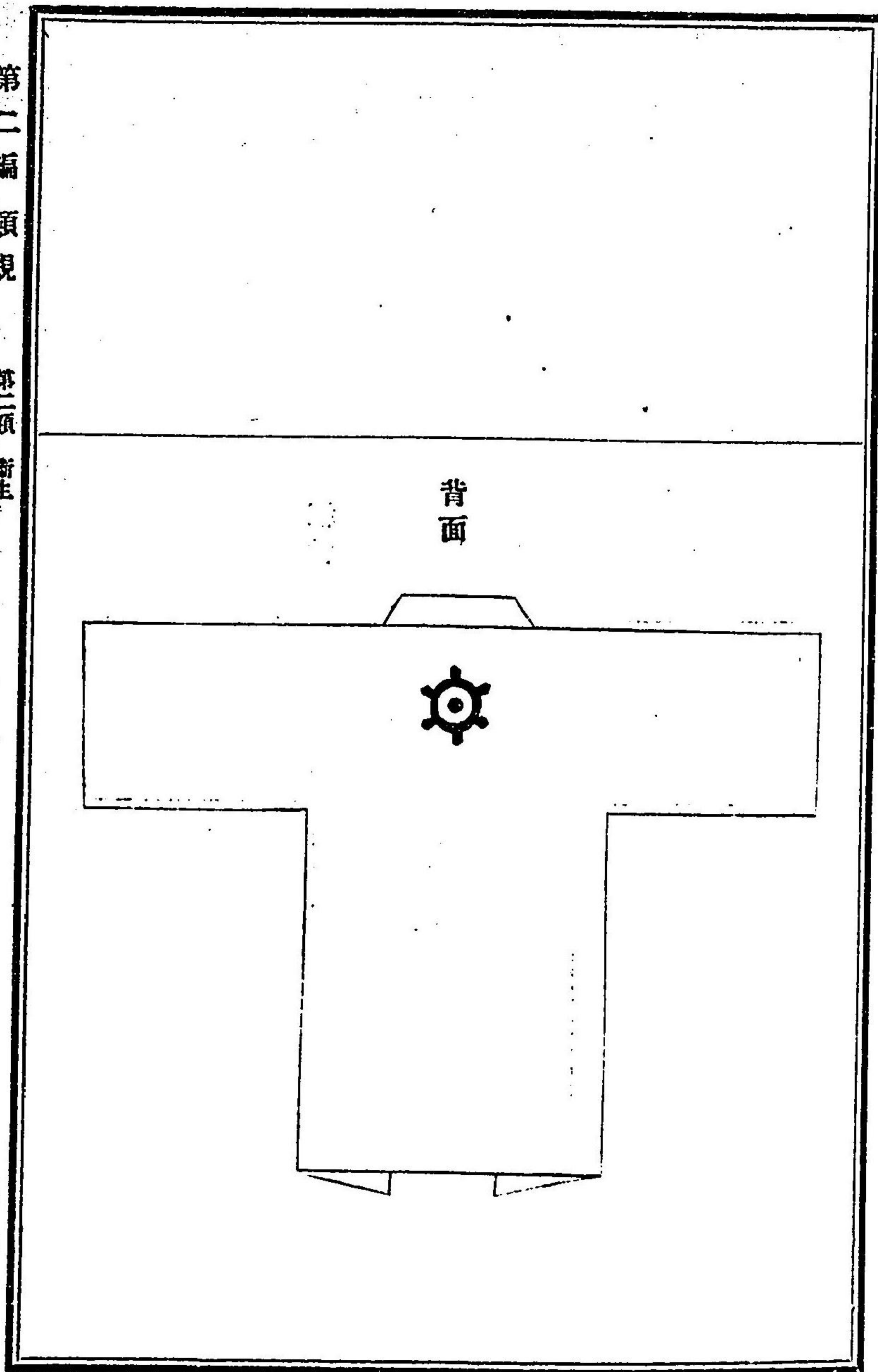
傳染病豫防消毒人夫ニ使用セル被服之儀從來各區一定
 不致候處將來新調ノ分ハ別紙圖例ニ依リ調製相成度此
 段及通牒候也

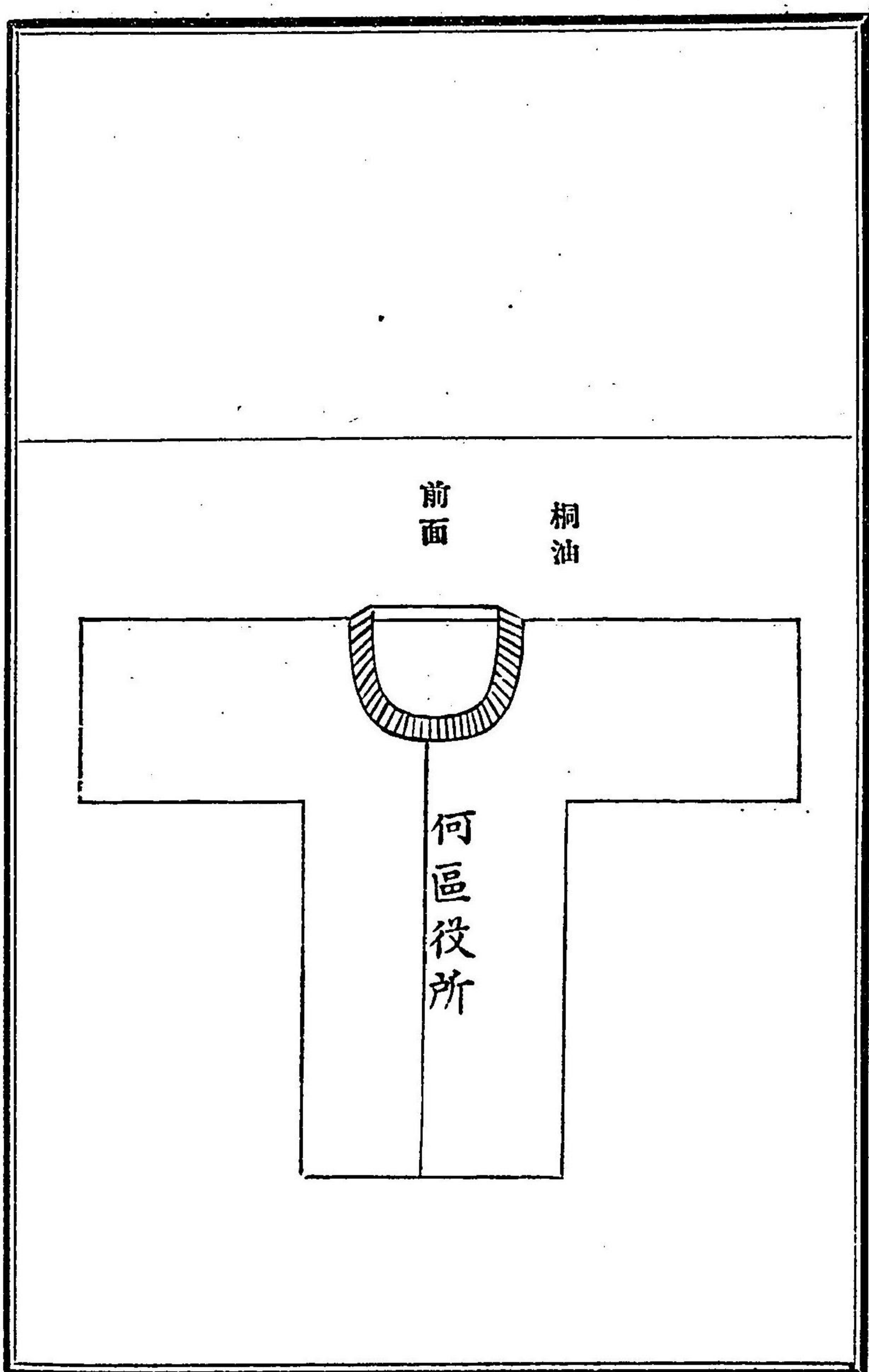
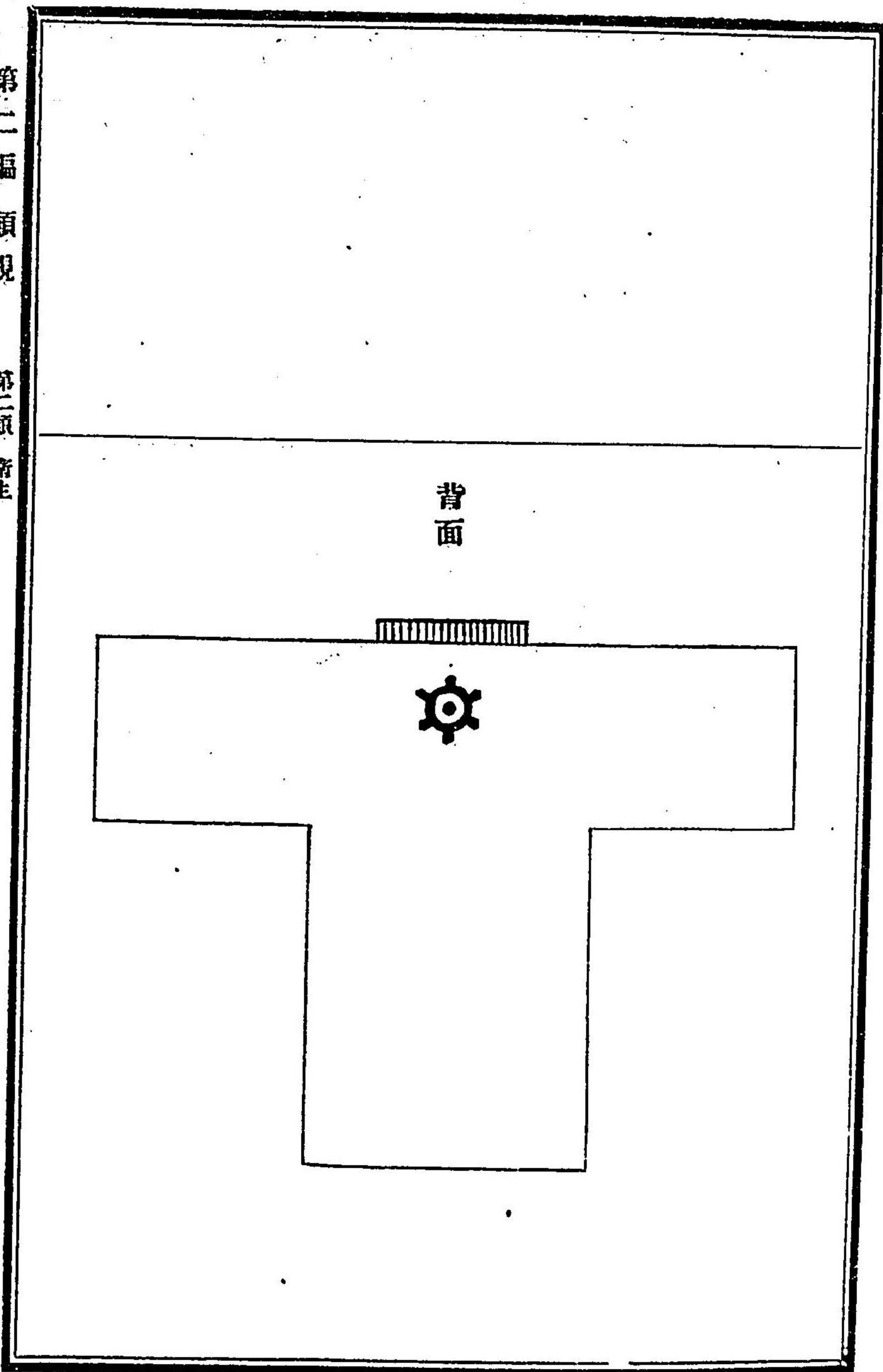
追テ從來調製ノ分ハ使用ニ堪ヘ得ル迄ハ其儘使用相
 成可然ニ付此段申添候也

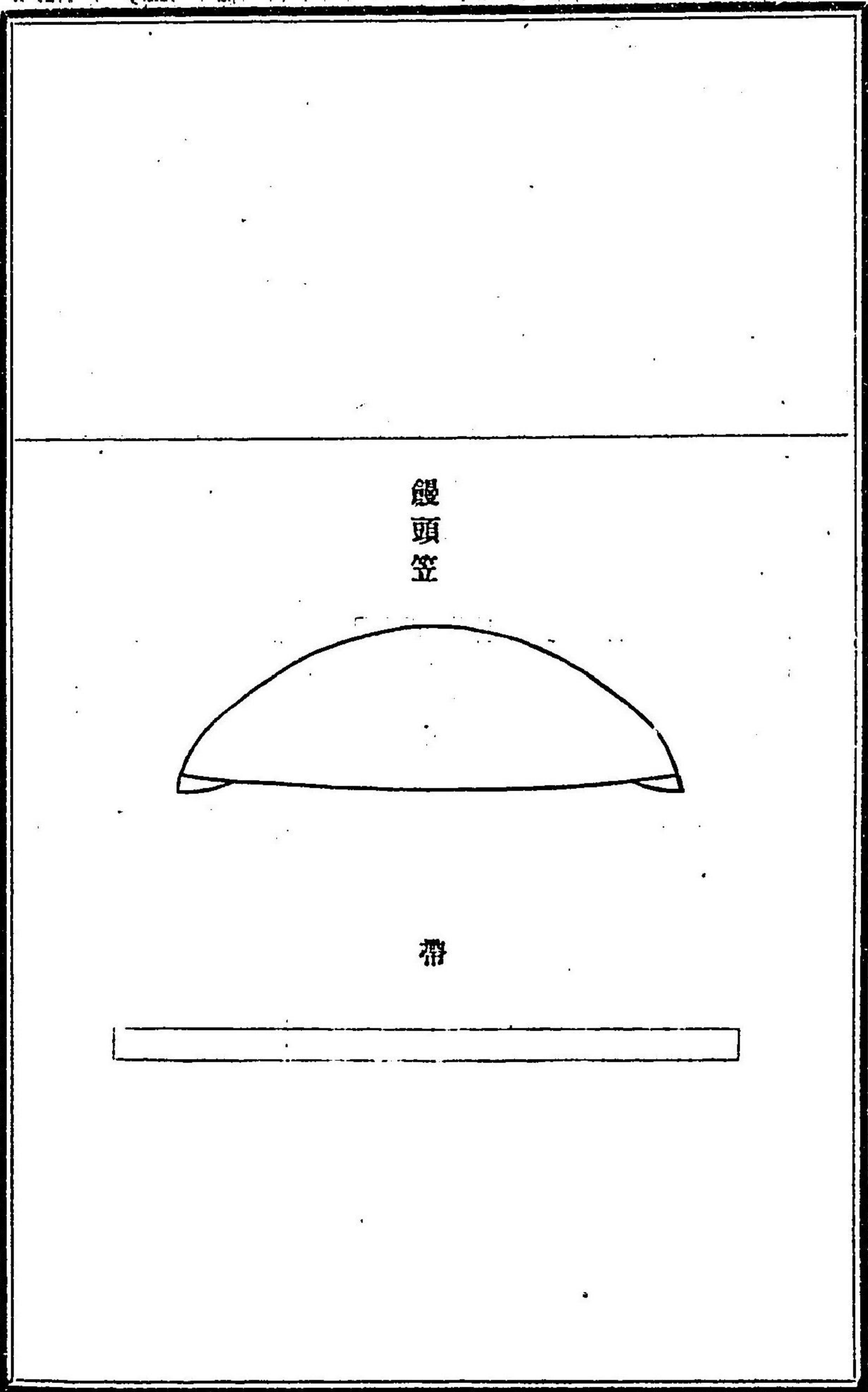
傳染病豫防消毒人夫被服圖例

消毒衣	地質晒天竺木綿形狀圖面雛形ノ通寸法適宜
法被	地質紺青綿木綿形狀圖面雛形ノ通前面區役所 名ハ白字背面徽章茶色系縫袷裏ハ花色木綿寸 法適宜
股引	地質紺青綿木綿形狀圖面雛形ノ通袷裏ハ花色 木綿寸法適宜
帶	地質花色木綿寸法適宜兵兒帶
鍍頭笠	夏晒天竺木綿蓋寸法適宜 冬黒天竺木綿蓋寸法適宜
桐油	合羽黒色徽章及區役所名黄色





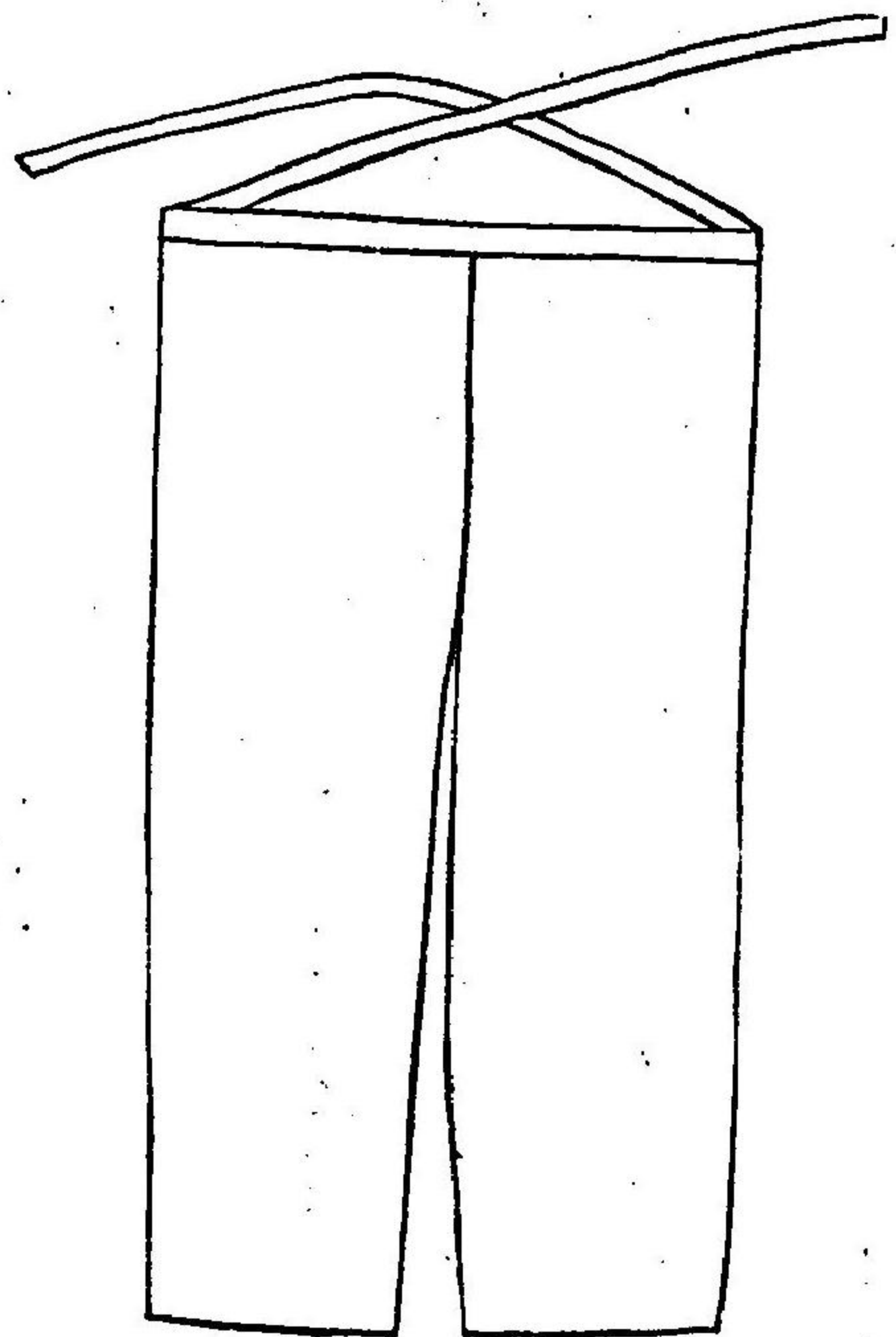




饅頭笠

帯

股引



● 汚物掃除規則 明治三十三年三月三十日 市告示 第二十八號

本市會ノ議決ヲ經東京市汚物掃除規則左ノ通り定ム

東京市汚物掃除規則

第一章 掃除方法

第一條 汚物ハ左ノ區別ニ依リ市費ヲ以テ之ヲ掃除ス

一 各戸汚物場 毎六日以内一回
 但土地ノ狀況其他ノ原由ニ依リ必要ナル場合ニ於テハ毎日若クハ隔日一回

二 廣場、車道、橋梁、共同物揚場
 地先下水等ニ於ケル汚物 毎二日以内一回

三 魚鳥及青物市場 毎日一回

第二條 汚物ハ第二章ノ規定ニ從ヒ請負人ヲシテ掃除セシムルモノトス

第三條 此規則ニ於テ汚物ト稱スルハ塵芥、塵芥ニ混同スル淤泥、泥魚鳥獸ノ骨、腸野菜ノ斷片、瓦礫、竹木其他一切ノ不潔物ヲ云フ

第四條 汚物掃除ハ主務吏員ヲ派出シ之ヲ監視セシムヘシ

第五條 第一條ノ期日ヲ過クルモ汚物ヲ掃除セサルト

キハ主務吏員又ハ市役所若クハ所轄區役所へ申出ヘシ

第二章 掃除請負方法

第六條 汚物掃除請負人ハ第一章ノ規定ニ從ヒ塵芥其他一切ノ汚物ヲ掃除シ尙汚物場ノ附近ハ清潔ニ掃除スヘシ

第七條 汚物堆積不潔ヲ極メ又ハ掃除不充分ナルトキハ定規ノ外臨時掃除ヲ命スヘシ
 請負人ニ於テ前項ノ掃除ヲ怠ルトキハ他人ニ命シ之ヲ掃除セシメ其費用ヲ辨償セシムヘシ

第八條 汚物運搬ニ要スル器具ハ凡テ請負人ノ自辨タルヘシ

第九條 請負人ハ市役所ノ指揮ニ依リ一定ノ服裝ヲ爲シタル掃除人夫ヲ使用スヘシ

第十條 請負人ハ請負ヲ命セラレタル日ヨリ十日以内ニ汚物掃除ニ要スル人夫并船車ノ員數船ノ定繫所等ヲ定メ市役所ノ認可ヲ受クヘシ其變更ヲ要スルトキ亦同シ

第十一條 汚物取扱所ハ煉化又ハ石造若クハ木造トシ汚臭等ノ漏溢セサル様建築シ市役所ノ検査ヲ受クヘシ

第十二條 汚物取扱場ハ東京市内又ハ接續郡村ニ於テ三十ヶ所ヲ建設スルモノトス

但事情ニ依リ市役所ノ許可ヲ得テ特ニ増設スルコトヲ得ヘシ

第十三條 汚物運搬車ハ臭氣汚汁ノ漏溢セサルヲメ覆蓋アル箱ヲ附着スヘシ

第十四條 汚物ヲ汚物取扱場外ニ於テ撰分シ又ハ河中

等ニ投棄ス可カラス

第十五條 汚物取扱場ニ汚物堆積シ公害アリト認ムルトキハ臨時所置セシムルコトアルヘシ

第十六條 請負人及掃除人夫ハ名義ノ如何ニ係ハラス各戸ノ汚物ヲ掃除スルカ爲メ各戸ヨリ金品ヲ受クヘカラス

第十七條 暴風雨其他天災ノ爲メ規定ノ掃除ヲ爲シ難キトキハ其事由ヲ具シ主務吏員ノ許可ヲ受クヘシ前項ノ許可ヲ受ケタルトキハ其事故ノ止ミタル翌日相當ノ人夫ヲ出シ之レカ掃除ヲ爲スヘシ

第十八條 請負人ハ毎日所轄區役所へ出頭シ主務吏員ノ指揮ヲ受クヘシ

第十九條 汚物掃除費ハ一ケ年ヲ四期ニ分チ三ケ月毎ニ之ヲ下付ス

但情狀ニ依リ三ヶ月以内ト雖モ之ヲ下付スルコト
 アルヘシ(第三十一年五月二十日市告追加)
 請負金額ハ汚物場ノ増減アルモ之ヲ變更セス
 第二十條 請負人ハ身許保證金トシテ請負金額ノ十分
 ノ一ヲ納付スヘシ
 第二十一條 請負人此規則ニ違背シタルトキハ期限内
 ト雖モ其請負ヲ取消シ且ツ身許保證金ノ全部又ハ幾
 部ヲ沒收スヘシ
 但情狀ニ依リ單ニ身許保證金ノ幾部ヲ沒收スルコ
 トアルヘシ
 第二十二條 請負人請負ヲ命セラレタルトキハ直ニ左
 ノ様式ニ依リ請負證ニ身許保證金ヲ添へ差出ス可シ
 第二十三條 請負年限ハ會計年度ニ依リ滿一ケ年間之
 ヲ命ス

但掃除ノ成績良好ナルトキハ期限滿了後更ニ之ヲ
 繼續セシムルコトアルヘシ
 第二十四條 本則ニ依リ命令スル建築物其他ノ事項ニ
 シテ警察上ノ取締規定アルモノハ各其所轄警察署ノ
 認可ヲ要スルモノトス
 附 則
 第二十五條 本規則ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ
 施行ス
 相當
 印紙
 請 負 證
 一金 東京市第 部汚物掃除請負金
 此身許保證金
 右金高ヲ以テ請負被命候ニ付テハ身許保證金トシテ前
 記ノ金額貴廳へ差出置キ凡テ汚物掃除規則ニ基キ明治

年 月 日ヨリ 年 月 日迄請負可
 申候萬一右規則ニ違背シタルトキハ違約金トシテ身許
 保證金ヲ沒收セララルルハ勿論貴應ニ於テ汚物掃除ヲ完
 全ニ執行スルコト能ハスト御認定相成爲メニ請負御取
 消相成候共異議無之又貴應ノ損害トナルヘキ不都合ノ
 所爲有之本人ニ於テ等閑ニ付スルトキハ保證人ニ於テ
 引受處置可致候依テ連署ヲ以テ請負證差出置候也

年 月 日
 住 所 請負人 氏名 印
 住 所 保證人 氏名 印
 保證人ハ市内ニ現住シ直接國稅
 金二十圓以上ヲ納ムル者

東京市參事會

東京市長宛

●汚物取扱場購買方明治三十三年三月十四日
市會議決第二十二號
 本市汚物掃除規則第十一條ニ依リ請負者ニ於テ建造セ
 シ汚物取扱場ハ請負契約期限満了ノ際時價ヲ以テ之ヲ
 市ニ購買スルモノトス
 但請負契約ヲ繼續シタル場合ハ其最終ノ日ニ於テ之
 ヲ購買ス

●汚物取扱場建設地無料特貸

明治三十三年五月一日
市會議決第四十三號
 本市汚物掃除規則第十一條ニ依リ汚物取扱場建設地ニ
 充用ノ爲メ貸付スル市有地及道路敷ハ汚物掃除請負人
 へ無地料ヲ以テ特貸スルコトヲ得

●塵芥掃除請負區域及請負人資格并入札心得

明治三十四年四月五日
市訓令甲第二十二號

區 役 所

汚物掃除法中塵芥掃除ニ付其請負區域請負人資格及入札心得等別紙ニ據リ處理スヘシ

(別 紙)

請負區域及入札人資格

- 一 請負區域ヲ市内十五區ニ分テ一區ニ對シ請負人一名ト定ム
 - 二 請負人ノ資格ハ市内ニ住居シ一ケ年以上引續キ直接國税金拾圓以上ヲ納ムルモノトス
 - 三 公入札又ハ指名入札ニ依ルモノトス
- 請負人入札心得
- 請負人ハ本市汚物掃除規則并左ノ件件ヲ承知ノ上入札スヘシ
- 一 塵芥取扱場ノ附近ハ最モ清潔ニ注意シ船積等ノ爲

メ川中ニ墜落セシ塵芥瓦礫竹木其他一切ノ不潔物ハ常ニ掃除スル事

二 運搬車其他塵芥掃除ニ使用スヘキ一切ノ器具類ハ不體裁ナラサル様注意シ且命令ニ依リ何時ニテモ改造修繕ヲ爲ス事

三 塵芥取扱場ノ一切ノ汚物ハ速カニ一定ノ地ニ排除スルハ勿論命令ニ依リ何時ニテモ臨時處置スル事

四 請負人自己ノ都合ニ依リ請負期限内ニ於テ請負ヲ辭スルトキハ身許保證金ヲ沒收セララル事

五 塵芥掃除時間ハ毎日午前八時ヨリ午後五時迄トシ命令ニ依リ伸縮スル事

六 入夫數諸器具類ニ於テ不足ナリト認ムルトキハ命令ニ依リ其數ヲ増加スヘキ事

七 掃除人夫ニ於テ各戸ニ對シ不都合ノ所爲アリタル

トキハ請負人ニ於テ其實ニ任スル事
 八塵芥運搬ニ供スル船車ニハ命令ニ依リ一定ノ徽章
 アル(旗ノ類)モノヲ掲クル事
 九人夫車其他一切ノ器具類ニ對シテハ少クモ毎月一
 回一定ノ場所ニ集メ検査スルモノトス
 十掃除人夫ハ年齢十八歳以上六十歳迄ノ者ニシテ壯
 健ナル者ヲ使用スル事
 十一汚物掃除規則第一條第一號ニ依リ掃除回數ハ土
 地ノ狀況ヲ參酌シ其地域ハ命令ヲ以テ定ムヘキ事
 十二塵芥取扱場ハ命令ニ依リ請負者ニ於テ自費ヲ以
 テ建造スヘシト雖中途自ラ請負ヲ辭シ又ハ請負ヲ
 取消サレ若クハ請負期限滿了ノ節ハ時價ヲ以テ東
 京市ニ購買スル事
 但其價格ニ對シ異議ヲ生シタル場合ハ本市ニ於

テ選定シタル評價人ノ評價格ニ依ルモノトス
 十三塵芥取扱場ハ一區ニ付建坪五十坪以上ノモノニ
 ケ所ヲ建造スル事
 但建築ニ付ヲハ豫メ其圖案仕様書ヲ添へ市役所
 ノ許可ヲ得ルモノトス
 十四入札者ハ入札保證金トシテ入札金高十分ノ一以
 上ヲ納付スル事
 但入札保證金ハ入札書ト同時ニ差出スヘキ事
 十五開札後落札人未タ請負ヲ命セラレサル以前ニ於
 テ其入札ノ取消ヲ乞フトキハ入札保證金ノ全部ヲ
 沒收セララルヘキ事
 十六開札ノ結果落札者ノ入札保證金ハ請負證ノ提出
 マテ區役所ニ保管シ其他ハ即時還付スル事
 十七開札ハ入札者ノ面前ニ於テシ豫算標準價格ノ範

園内ニ於テ金額最モ低キモノヲ以テ落札トスル事
但二人以上入札金高同一ナルトキハ抽籤ヲ以テ
之ヲ定ムル事

十八入札書ニハ入札者自カラ記名調印ヲナスヘキ事
十九既ニ開札ニ着手シタル以上ハ入札書ノ訂正ヲ許
サス

二十請負人請負期限内ニ於テ請負ヲ解除セシ際ハ塵
芥取扱場ヲ東京市ニ購買スル迄ノ間其繼承請負人
ニ對シ無償ニ貸與スヘキ事

二十一塵芥運搬車ハ人夫一人ニ對シ一輛宛トス
但車ノ必要ナキ人夫ニ付テハ此限リニアラス

二十二傳染病流行時其他ノ事由ニ依リ必要ト認ムル
トキハ臨時塵芥ノ焼却ヲ命スルコトアルヘシ
二十三請負入札書式左ノ如シ

請負入札書

一金、〃、〃也

何區塵芥掃除請負額

右ハ汚物掃除規則并請負入札心得承知ノ上入札候
也

年月日

入札者 何

誰印

何區長宛

●下水浚渫事務取扱手續

明治三十四年三月二十九日市長通達
總發第四百五十四號區長宛

本月二十九日日本市告示第二十四號ヲ以テ下水浚渫ニ關
スル事務委任ニ付テハ該事務取扱ニ關シテハ左ノ事項
ニ依リ施行セラルヘシ此段及通達候也

下水浚渫事務取扱手續

一公共下水浚渫ハ之ヲ別チテ定期浚及臨時浚ノ二種ト
ス

二定期浚ハ道路廣場下水井人車道境界下水及泥溜樹ハ
 隔月三回其他ノ下水ハ毎年四五月ノ頃一回露渠暗渠
 ノ別ナク全區ヲ通シテ一齋ニ浚深ヲナスモノトス
 三臨時浚ハ各種下水ノ實況ニ依リ汚泥等溜滞ノ場所ニ
 就キ隨時浚深ヲナスモノトス
 四下水浚深ノ方法ハ下水ニ底ノ設アルモノハ其底迄
 ノ設ナキモノハ柵端迄泥土塵芥共浚揚清潔ニ掃除ス
 ルモノトス
 但地先下水内ノ塵芥掃除ハ定期浚ヲ除キ平素ニ在
 テハ塵芥掃除請負者ニ於テ負擔スヘキニ付下水浚
 深費ヨリ支辨ノ限リニアラス
 五下水浚深ノ際ハ泥土及塵芥ハ速ニ取片付ヲ終ヘ下水
 ノ沿岸又ハ路上等ニ散逸セシムヘカラス
 六浚深ニ係ル泥土塵芥等取捨場トシテ深川區洲崎埋立

地若クハ相當ノ場所ニ就キ豫メ之ヲ設ケ置クヘシ
 但運搬上ノ便ヲ圖リ一時假置場ニ移シ水切等ヲナ
 スノ必要アルトキハ衛生上障害ナキ地ヲ撰定シ警
 察署ノ承認ヲ經テ當廳ヘ報告スヘシ
 七汚泥ヲ船積トシテ搬送スルトキハ河中ニ投棄スルノ
 慮アルニ付取締上充分注意スヘシ
 八下水浚深ノ際ハ破損セサル様注意セシムヘシ萬一請
 負者ニ於テ破損シタルトキハ其損害ハ請負者ニ負擔
 セシムヘシ
 九下水浚深ハ公ノ入札ニ付スヘシ
 但請負金額貳百圓以下ノモノハ公入札ニ付セス定
 請負人ヲシテ之ヲ請負ハシムルコトヲ得
 十臨時浚及地内下水汚泥搬出ハ常備人夫ヲ置キ施行ス
 ルヲ便宜トスルトキハ其方法ヲ具シ市參事會ノ認可

ヲ受クヘシ

十一 地内下水汚泥ハ可成公共ノ地先下水ニ排出セシムヘシト雖モ土地ノ狀況ニ依リ特ニ搬出ノ必要アル場合ハ豫メ搬出ノ日限ヲ定メ置其地内關係者ニ通知スヘシ

十二 定期浚ヲナストキハ其施行ノ日限及町名ヲ具シ豫メ當廳ヘ報告スヘシ

十三 臨時浚ヲナシタル下水ノ場所及浚ノ度數ハ半年毎ニ取調前年期四月ヨリハ十月二十日後半期十月ヨリマテハ四月二十日限リ當廳ヘ報告スヘシ

● 下水浚泥土運搬取締方

明治三十三年六月七日助役照會
土發第千二百六十一號區長宛

下水浚泥土取片付ニ關シテハ請負者トノ契約モ可有之義ト存候得共深川區平久町海面土捨場ハ右浚泥土

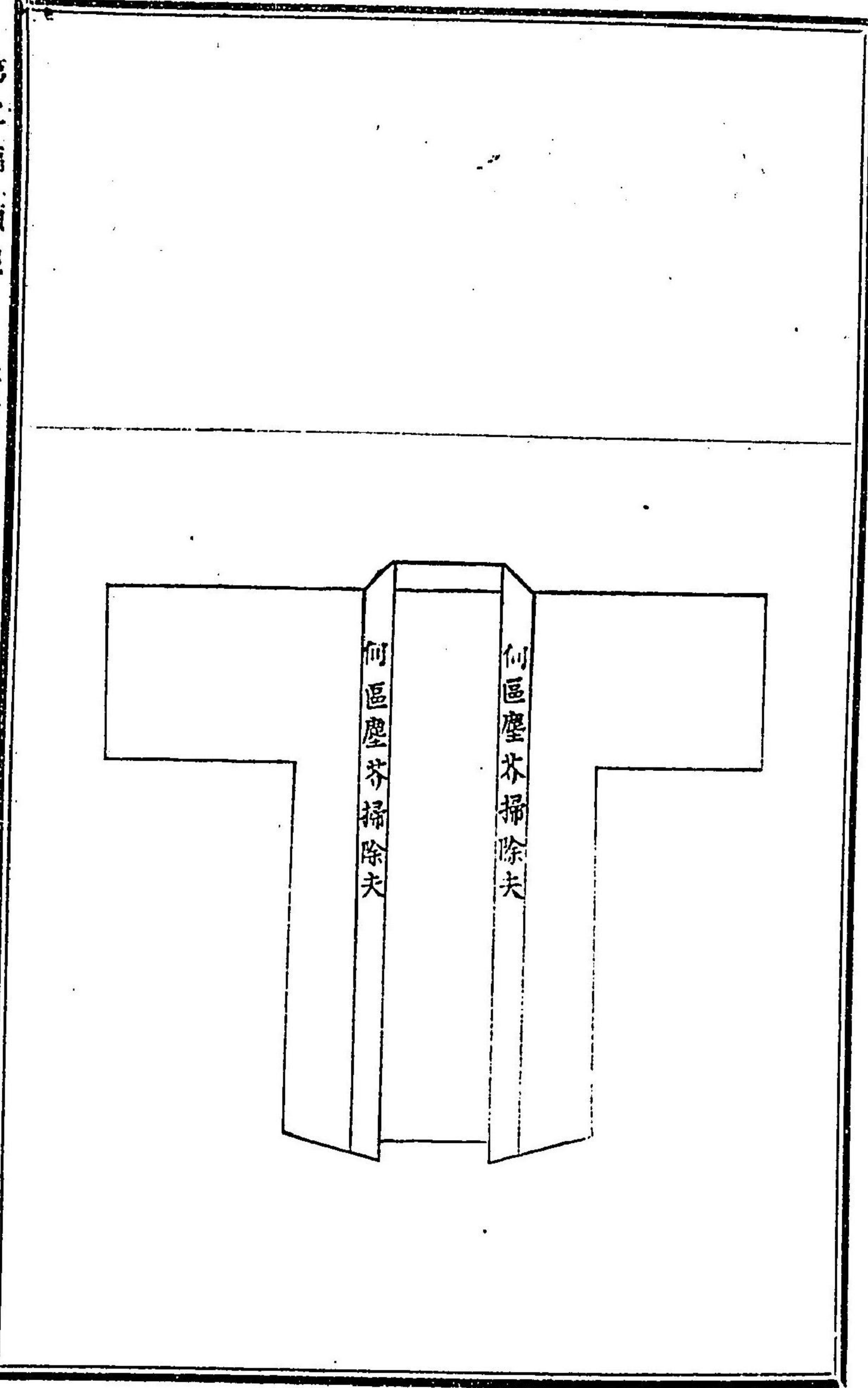
ヲモ同所へ捨サセ一ハ本市ノ財源増殖ヲ計ルノ目的ヲ以テ計畫シタルニ外ナラサル義ニ有之就テハ右浚泥土ニシテ舟運送ニ係ルモノハ爾今該土捨場へ運搬セシメラルル様御取計相成度又運搬取締ニ關シテハ別紙切符ニ積込量積ヲ記シ運送セシメナハ同所出張員(土木部員)ニ於テ検査ヲ終へ捺印ノ上該切符ヲ返付セシムヘシ然カ爲ス上ハ途中河中等へ投スルノ憂ナク埋立事業モ進捗シ本市ノ利益鮮少ナラサル義ニ付斯ク取計ハルル様致度別紙切符相添此段及照會候也

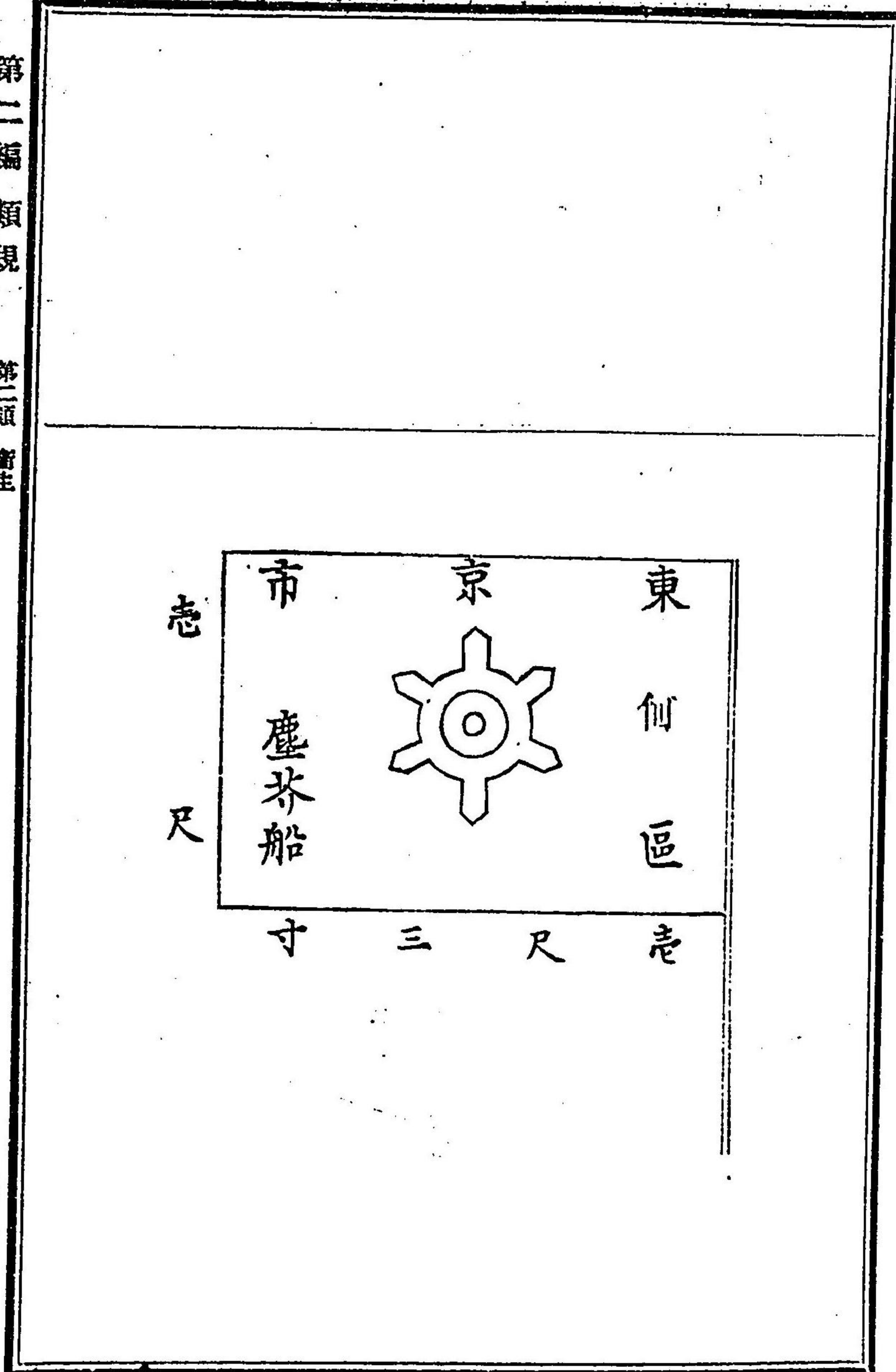
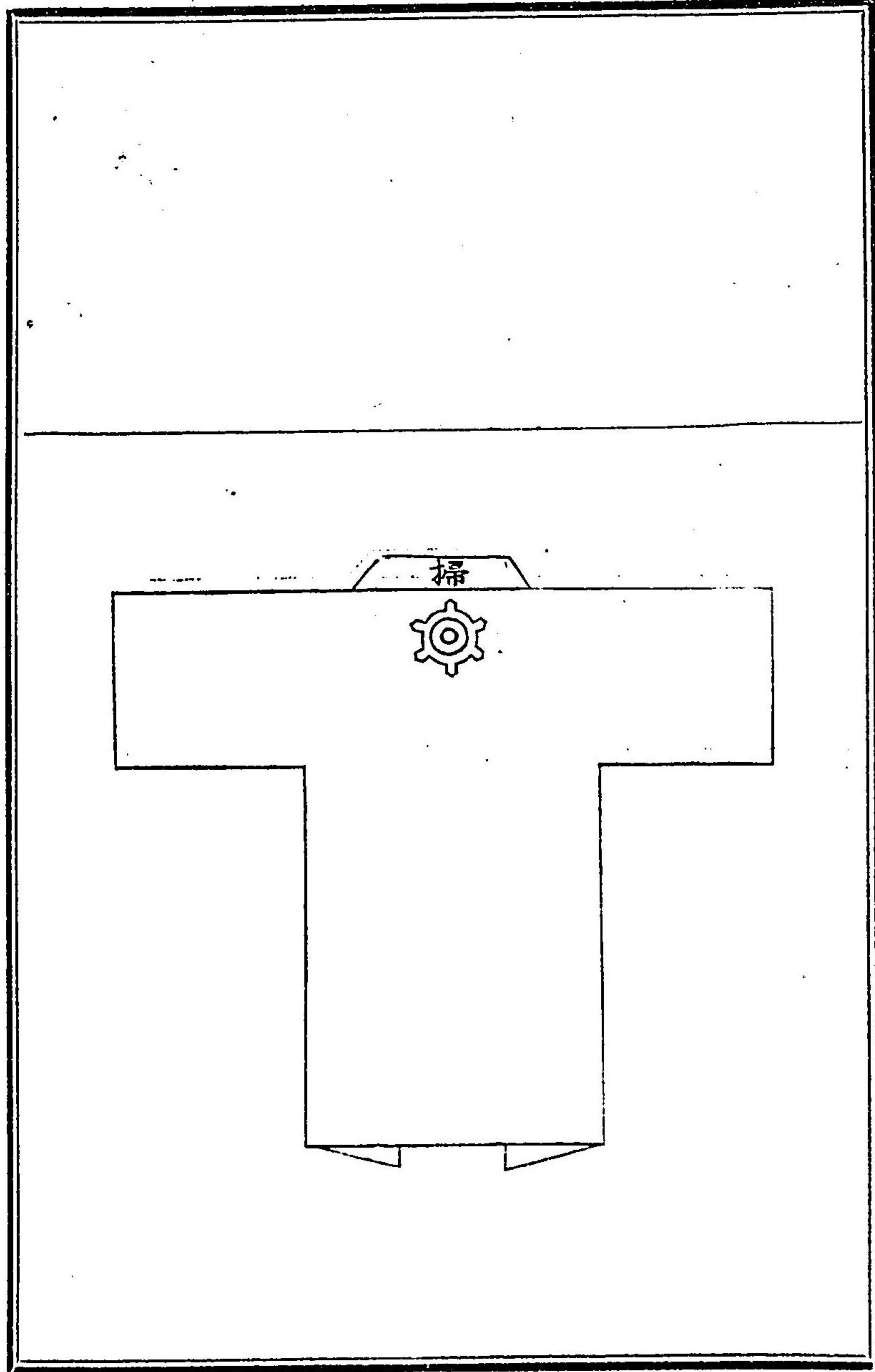
(別紙)

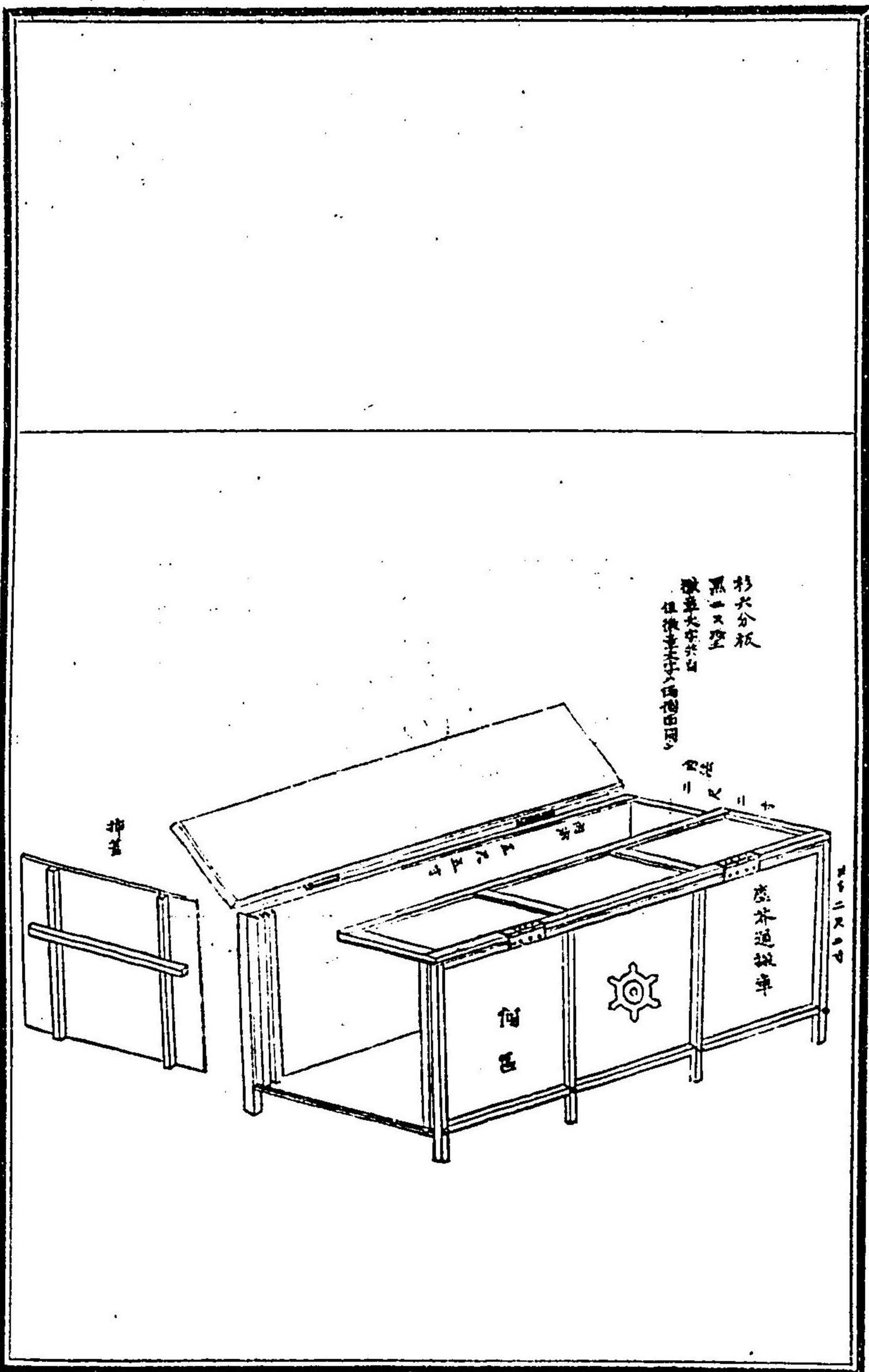
第	號	船頭
一	立	坪
合	勾	長
同	改	

改土立	坪	合	勺	高
				樹
年月日	東京市土木部			同
				同
				工
				場

●塵芥掃除夫法被運搬車徽章等雜形
明治三十四年四月二十三日助役通牒
 總發第六千六百六十六號區長宛
 塵芥掃除人夫運搬車及船等ニ用ユル徽章並運搬車箱ノ
 構造ハ別紙雜形ニ依リ調製セシメラレ度此段及通牒候
 也







● 焼失跡道路掃除方法 明治三十三年六月二十九日 市議決

- 焼失跡道路掃除ハ左ノ方法ニ依リ施行スルモノトス
- 一 出火アリタルトキハ直チニ受持監督現場ニ出張シ焼失跡道路掃除ニ要スル人夫ノ概數ヲ調査シ請負者ヲ定メ見積書ヲ徴シ直チニ之レヲ監督長ニ報告スルコト
 - 二 前項掃除費見積金額五拾圓以内ナルトキハ監督長ハ請負者ニ命シ直チニ施行セシメ費額五拾圓以上ニ涉ルトキハ市參事會市長ノ認可ヲ受ケ施行スルモノトス
 - 三 掃除終了ノ上ハ監督ハ更ニ實際使用ノ人夫并ニ運搬車數ヲ報告スルコト
 - 四 掃除人夫賃ハ一人平均金四拾錢運搬車ハ人足付壹臺一日金貳圓以内トス

●鳥獸死屍取片付方法明治三十三年七月十二日
市參事會議決

鳥獸死屍取片付ハ左ノ方法ニ依リ施行スルモノトス

一掃除監督ハ受持區内道路其他ニ於テ鳥獸ノ死屍アル
ヲ發見シ若クハ其通知ヲ受ケタルトキハ直チニ請負
人夫ヲ派シテ取片付ヲナサシムルモノトス

一鳥獸死屍ノ取片付ハ之ヲ燒却スルカ又ハ衛生上其他
ニ障害ナシト認ムルトキハ埋却若クハ便宜方法ニ依
リ處置セシムルモノトス

一掃除監督ハ取片付ヲナシタル鳥獸死屍ノ種類及頭數
ハ其處置ノ要領ヲ付記シ一ヶ月毎ニ製表シ翌月二日
限リ監督長ニ報告スヘシ

一掃除監督ハ一ヶ月毎ニ請負人ヨリ請求書ヲ徴シ之ニ
捺印ヲナシ翌月二日限リ市參事會市長ヘ進達スルコ
ト

一鳥獸死屍取片付ノ請負金ハ運搬處置費共一頭平均金
參拾錢以内トス

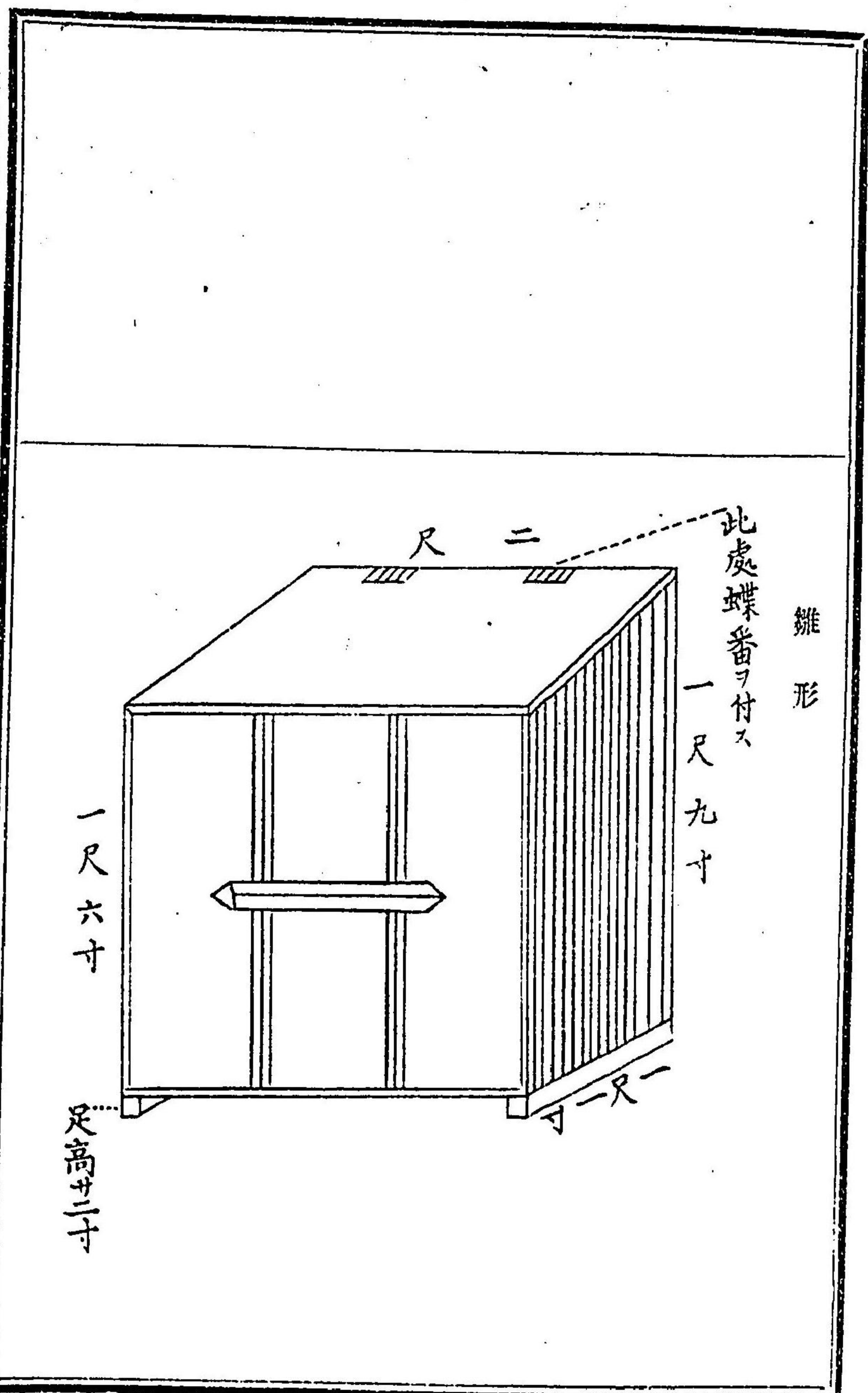
●塵芥容器設備方明治三十三年四月十五日
市參事會議決 第三號

汚物掃除義務者ニ於テ蒐集スル塵芥ノ容器ハ本年三月
內務省令第五號汚物掃除施行規則第三條ニ依リ各自ニ
於テ設備スヘキモノナルニヨリ未タ其備ヘナキモノハ
此際至急之ヲ設クヘシ

●塵芥容器罐形明治三十三年五月三十日
市參事會議決 第六號

汚物掃除義務者ニ於テ蒐集スル塵芥ノ容器ハ本年三月
內務省令第五號汚物掃除施行規則第三條第一項ニ據リ
各自ニ於テ設備スヘキモノナルコトハ屢ニ及告諭置候
處今般警視廳令第十八號ヲ以テ清潔保持ニ關スル取締
規則制定相成候ニ付該則第四條第五條ノ規定ニ準據シ
區區ナラサル様可成左ノ罐形ニ倣ヒ之ヲ設ク又從來使

用ノ容器ニシテ覆蓋ナキモノハ之ヲ調製シ又破損セシ
 モノハ此際修理ヲ加ヘ漸次完全ノモノニ改造スヘシ
 一木製厚板にして内部にコールタールを塗り外面は
 ペンキ塗と爲す
 二箱の正面又は側面に棧を付し自在に上下するの装
 置に構造すヘシ
 三蓋は普通家根形に構造するも差支なし
 四塵芥の多量に生ずる家又は數人共用の場合に於て
 は其形を大にするは便宜たるヘシ



● 掃除監視吏員職務章程 明治三十三年四月二十五日

掃除監視吏員

本市掃除監視吏員職務章程左ノ通相定ム

掃除監視吏員職務章程

第一章 掃除監督長ノ職務

第一 掃除監督長ハ掃除監督掃除監視及掃除人ノ勤務作業服装等ヲ監視シ必要ナル指揮ヲ爲スヘシ

第二 掃除監督長ハ市内ヲ巡回シ左ノ事項ヲ視察スヘシ

一 掃除監督以下ノ配置ノ適否

二 掃除人ノ數及其ノ配置ノ適否

三 塵芥焼却場汚物假置場ノ狀況

四 公共溝渠公共便所ノ狀況

五 其ノ他市ノ義務ニ屬スル場所ノ掃除ノ狀況

六 私人ノ義務ニ屬スル場所ノ掃除ノ狀況其他掃除ニ關スル法令ノ行否

第三 掃除監督長ハ公共溝渠公共便所塵芥焼却場汚物假置場等ノ築造修繕浚渫等ヲ要スト認ムルトキハ市參事會ニ具申スヘシ

第四 掃除監督長ハ汚物掃除法第七條ニ依リ履行期間ヲ指定シテ私人ニ戒告シ及私人ノ履行スヘキ事項ヲ施行スヘシ

第五 掃除監督長私人ニ戒告スルトキハ左ノ事項ヲ除ク外市長ノ指揮ヲ受クヘシ

一 溝渠便所井戸流其ノ他ノ場所ノ掃除及汚物ノ處分ニシテ人夫十人以内ニテ履行シ得ヘキ見込ナルモノ

二 溝渠便所井戸流ノ築造修繕等ニシテ十圓以内ノ費

用ヲ以テ履行シ得ヘキ見込ナルモノ
 三塵芥容器ノ備付取替等
 第六 掃除監督長戒告書ヲ送達セシムルトキハ領收證ヲ徴セシムヘシ
 第七 掃除監督長汚物掃除法施行規則第十五條ノ申告ヲ受ケタルトキ又ハ警察官署ノ通知アリタルトキハ掃除監督又ハ掃除巡視ヲシテ臨檢セシメ必要ト認ムルトキハ自ラ臨檢スヘシ
 第八 掃除監督長ハ掃除巡視ノ受持區書ヲ定ムヘシ
 第九 掃除監督長ハ掃除巡視ニ受持ノ區又ハ勤務ノ場所ヲ命スヘシ
 第十 掃除監督長ハ臨時必要アルトキハ掃除監督ヲシテ他ノ掃除監督ノ擔任ニ屬スル事務ヲ補助代理セシメ又ハ掃除巡視ヲシテ掃除監督ノ事務ヲ補助代理セシムルコトヲ得

シムルコトヲ得
 第十一 掃除監督長ハ掃除監督及掃除巡視ノ進退賞罰ヲ市參事會ニ具申スヘシ
 第十二 掃除監督長ハ掃除人ヲ雇入レ及之ヲ解雇シ又ハ人夫請負人ニ命シテ掃除人ヲ解雇セシムルコトヲ得
 第十三 掃除監督長ハ人夫請負人ニシテ不都合アリト認ムルトキハ市參事會ニ具申スヘシ
 第十四 掃除監督長ハ毎月一回左ノ事項ヲ調査シ翌月十五日マテニ市長ニ報告スヘシ
 一 使用シタル掃除人ノ延人員(掃除區審別塵芥燒却場等ニシテ)
 二 搬出シタル塵芥及汚泥ノ各見積重量又ハ容量(掃除區審別)

三 燒却シタル塵芥ノ見積重量又ハ容量(却場別)

四 公共溝渠公共便所塵芥燒却場汚物假置場等ノ築造修繕浚渫等ニ若手シ又ハ落成シタル個所其ノ狀況

五 掃除監視吏員ノ特ニ視察シタル戸數(溝渠個所井戸溝渠等ニ視察シタルモノ)

六 掃除監視吏員巡回視察中私人ニ與ヘタル注意ノ件數

(イ) 塵芥容器又ハ其ノ使用方ニ付

(ロ) 溝渠ニ付

(ハ) 便所ニ付

(ニ) 地域内ノ掃除ニ付

(ホ) 其ノ他(前各號ニ準シテ項目ヲ分ツテ要ス以下全シ)

七 私人ニ戒告シタル數

(イ) 塵芥容器又ハ其ノ使用方ニ付

(ロ) 溝渠ニ付

(ハ) 便所ニ付

(ニ) 地域内ノ掃除ニ付

(ホ) 其ノ他

八 戒告ヲ受ケ私人ノ履行シタル件數

(イ) 塵芥容器又ハ其使用方ニ付

(ロ) 溝渠ニ付

(ハ) 便所ニ付

(ニ) 地域内ノ掃除ニ付

(ホ) 其ノ他

九 代執行シタル件數

(イ) 塵芥容器又ハ其ノ使用方ニ付

(ロ) 溝渠ニ付

(ハ) 便所ニ付

- (三) 地域内ノ掃除ニ付
- (ホ) 其ノ他
- 十 掃除監視吏員申告ニ依リ臨檢シタル件數
- (イ) 塵芥容器又ハ其ノ使用方ニ付
- (ロ) 溝渠ニ付
- (ハ) 便所ニ付
- (ニ) 地域内ノ掃除ニ付
- (ホ) 其ノ他
- 十一 掃除監視吏員警察官署ノ通知ニ依リ臨檢シタル件數
- (イ) 塵芥容器又ハ其ノ使用方ニ付
- (ロ) 溝渠ニ付
- (ハ) 便所ニ付
- (ニ) 地域内ノ掃除ニ付

- (ホ) 其ノ他
- 十二 掃除監視吏員施行規則又ハ掃除法施行ニ關スル廳府令ニ依リ告發シタル者ノ數
- (イ) 第何條ニ依リ
- (ロ) 第何條ニ依リ
- (ハ) 第何條ニ依リ
- (ニ) 第何條ニ依リ
- 其ノ他
- 第十五 掃除監督長ハ毎年掃除事務年報ヲ調製シ翌年六月マテニ市長ニ提出スヘシ
- 第十六 掃除事務年報ニ記載スヘキ事項ハ左ノ如シ
 - 一 掃除區畫ノ數各區ノ面積戸數人口(戸數人口ハ邊近調査ニ依ル)
 - 二 各掃除區畫内ノ受持區畫ノ數
- 三年末現在掃除監視吏員ノ員數俸給別

四 毎月使用シタル掃除人ノ延人員(掃除區並別塵芥焼却場等ニ使用スル者ハ別ニ之ヲ示ス)

五 毎月搬出シタル塵芥汚泥ノ各見積重量又ハ容量(掃除區並別)

六 焼却シタル塵芥ノ見積重量又ハ容量(塵芥焼却場別)

七 公共便所塵芥焼却場汚物假置場等ノ數(公共便所汚物假置場ハ掃除區並別年未現在)

八 公共溝渠公共便所塵芥焼却場汚物假置場等ヲ築造修繕浚渫等ニ着手シ又ハ落成シタル箇所其狀況

九 汚物掃除法施行規則第五條ニ依リ市ニ於テ汚物ヲ蒐集スル戸數(毎日何回蒐集何戸毎日一回全上ニ依リ二日一回全上ニ依リ年未現在)

塵芥容器塵芥溜ノ數(掃除區並別年未現在)

十 汚物掃除法施行規則第二十一條ニ基キ土地ノ占有者ヲシテ汚物ヲ處分セシムル箇所ノ數(掃除區並別年未現在)

十一 毎月掃除監視吏員ノ特ニ視察シタル戸數(溝渠並別ニ視察シタル地域内ヲ特ニ視察シタルモノ)

十二 掃除監視吏員毎月巡回視察中私人ニ與ヘタル注意ノ件數

(イ) 塵芥容器又ハ其使用方ニ付

(ロ) 溝渠ニ付

(ハ) 便所ニ付

(ニ) 地域内ノ掃除ニ付

(ホ) 其ノ他

十三 毎月私人ニ戒告シタル件數

(イ) 塵芥容器又ハ其ノ使用方ニ付

(ロ) 溝渠ニ付

(ハ) 便所ニ付

(ニ) 地域内ノ掃除ニ付

(ホ)其ノ他
十四 戒告ヲ受ケ私人ノ履行シタル件數(毎月)

(イ)塵芥容器又ハ其ノ使用方ニ付

(ロ)溝渠ニ付

(ハ)便所ニ付

(ニ)地域内ノ掃除ニ付

(ホ)其ノ他

十五 代執行シタル件數(毎月)

(イ)塵芥容器又ハ其ノ使用方ニ付

(ロ)溝渠ニ付

(ハ)便所ニ付

(ニ)地域内ノ掃除ニ付

(ホ)其ノ他

十六 掃除監視吏員申告ニ依リ臨檢シタル件數(毎月)

(イ)塵芥容器又ハ其ノ使用方ニ付

(ロ)溝渠ニ付

(ハ)便所ニ付

(ニ)地域内ノ掃除ニ付

(ホ)其ノ他

十七 掃除監視吏員警察官署ノ通知ニ依リ臨檢シタル件數(毎月)

(イ)塵芥容器又ハ其ノ使用方ニ付

(ロ)溝渠ニ付

(ハ)便所ニ付

(ニ)地域内ノ掃除ニ付

(ホ)其ノ他

十八 掃除監視吏員施行規則又ハ掃除法施行ニ關スル
廳府令ニ依リ告發シタル者ノ數(毎月)